2012年3月号 No. 441

JCAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

ワシントンDC日本商工会会報

3月号 2012年 No. 441

目次

- 桜寄贈100周年記念：大辻会長からのご挨拶「サクラ咲く」ワシントン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 退任理事のご挨拶
  大出理事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
  吉村理事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
  市川理事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
  園田理事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 日米友好のシンボル、桜
  万延元年遣米使節子孫の会会長　村垣孝・・・・8
- シリーズ～日本語教育の現状に迫る～「第五回」「ウィットマン高校『グローバルビジネス』授業での講演」三井物産事務所所長　米山伸郎・・・・・・・・・9
- U.S.-Japan Task Force Holds Second Meeting
  吉村亮太・園田隆則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 「世界の医療最先端現場（NIH）からのメッセージ（その5）」番外編　洞窟魚のスーパー能力」
  University of Maryland, 吉澤匡人・・・・・・・・・・・11
- 「ワシントンおとめ　Vol.6」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 桜寄贈100周年記念特別企画
  「映画で語るワシントン桜寄贈100周年」
  “ワシントンで映画を語る会”のメンバーによる共同執筆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- ワシントン月報(第82回)：服部健一・・・・・・・・・・・24
- ワシントンソーシャルライフ：シゲコ　ボーク・・・27
- 映画「The　Descendants」：長野さわか・・・・・・29
- 今月の書評「9・11陰謀説信者の中で」：
  池原麻里子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
- 連載小説「ワシントン・スクランブル」第2話
  愛川耀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
- 今月の簡単レシピ：木内由紀・・・・・・・・・・・・・・・37
- English Rescue by Jennifer：
  「日本人が間違いやすい英語表現⑪」・・・・・・・・・40
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

今月の特集

「桜寄贈100周年記念：大辻会長からのご挨拶」

桜寄贈100周年を記念し、ワシントン日本商工会も多彩なプログラムを実施致します。桜祭りに向けて大辻会長よりご挨拶頂きました。P.2

「退任理事のご挨拶」

ワシントン日本商工会繁栄の為にご尽力され、任務を終えた理事4名からご挨拶を頂きました。P.4～

「日米友好のシンボル、桜」

万延元年遣米使節子孫の会会長村垣孝様に日本人の桜の木への想い、桜を通した日米友好の歴史、また桜がシンボルとされる由縁等、ご寄稿頂きました。P.8

「シリーズ--日本語教育の現状に迫る～第五回～」

今月は三井物産事務所米山伸郎所長による「ウィットマン高校『グローバルビジネス』授業での講演」の模様をご紹介致します。P.9

「U.S.-Japan Task Force Holds Second Meeting」

東京で開催されましたU.S.-Japan Task Force Holds第二回目の会議についてご報告致します。P.10

「世界の医療最先端現場（NIH）からのメッセージ（その5）番外編　洞窟魚のスーパー能力」

今月の第四走者はNIHではなく、メリーランド大学カレッジパーク校で、洞窟の暗闇に生息する洞窟魚を通して「進化学」の研究をなさっている吉澤匡人様に、ご寄稿頂きました。P.11

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

1819 L Street N.W., Level 1B, Washington, D.C. 20036 TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948 www.jcaw.org

桜寄贈100周年記念：大辻会長からのご挨拶
「サクラ咲く」ワシントン

ワシントン日本商工会会長　大辻 純夫
Senior Vice President
Toyota Motor North America, Inc.

3月に入り、もう桜開花のニュースが入ってきました。タイダルベーズンの桜を管理するナショナルパークサービスの発表（3/1）によれば、暖冬のため例年よりかなり開花が早く、22日には咲き始め、24日から31日にかけて満開になるとのことです。

今年のワシントンのNational Cherry Blossom Festivalは、尾崎行雄東京市長がワシントンに桜を寄贈して100周年に当たるため、従来の2週間から約5週間（3月20日から4月27日まで）に拡大され、さまざまなプログラムが繰り広げられることになっています。ワシントン地区にお住まいの商工会会員の皆さまにおかれては、タイダルベーズンの桜を観賞されるだけではなく、しっかり情報収集して、ご家族の皆様と楽しんでいただければ幸いです。（http://www.nationalcherryblossomfestival.org/などご参照）

我がワシントン日本商工会は、前月号にも書かせていただきましたように、この記念すべき100周年の節目に日本大使館、ニューヨーク日本商工会議所とともに、次の100年にも日米の友好な関係が育まれることを祈念して多彩なプログラムを実施いたします。

米国の若手日本専門家による日米関係の将来ビジョン策定支援、米国における日本語教育支援、100年前の桜が今なお存在するタイダルベーズンでの景観整備や全米の30以上の都市での桜植樹など、商工会理事を中心とするグループや大使館の方々が今、知恵を絞り汗をかいて準備しております。プログラムの準備に忙殺され、皆さまに情報をお伝えするのがともすれば遅れがちになっておりますが、順次メールやウェブサイトでご報告していきますので、関心をもって見ていただければと思います。（http://jcaw.org、http://www.jcawf.org/japanese/　http://www.us.emb-japan.go.jp/j/event/sakura100jp.htm ）

皆さんに是非お伝えしたいことは、100年前にアメリカ人にも感動をもたらしうる類まれな特質を備えた桜を、しかも一度は検疫に通らず、全て焼いてしまったにもかかわらず再度米国に3,000本に及ぶ量の苗木を送った日米の先人達の想い－桜を通じた日米友好の絆を作る－です。そして、私達は、この機会に微力ながら次の100年のために（は大げさにしても次の10年、20年のために）何かしておきたいと思って今注力しているところです。（100年前の桜寄贈の経緯については、藤崎大使のワシントンポストオプエドをご覧ください。
http://www.washingtonpost.com/opinions/washingtons-cherry-blossoms-a-century-old-connection-between-us-japan/2012/01/13/gIQAD2XmEQ_story.html）

話は変わりますが、桜が咲く前に東日本大震災の一周年が来ます。被災された皆様には改めてお見舞い申し上げるとともに一日も早い被災地の復興を心からお祈り申し上げます。またワシントン日本商工会財団（JCAW　Foundation）にご寄付いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。商工会としては、一旦3月末をもってご寄付の受付は打ち切らせていただきますが、今後は別の形で何ができるかを考えていきたいと思います。皆様のご提案もお待ちしております。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

既にご存じかもしれませんが、震災と桜をテーマにしたドキュメンタリー映画が話題になっています。この映画“The Tsunami and the Cherry Blossom” は、アカデミー賞にノミネートされたものの、惜しくも受賞は逸しました。東日本大震災後に被災地に咲いた桜がいかに被災者の心の支えになったかを描いているとのことです。私も是非見たいと思っていますが、DCでは下記の機会にご覧いただくことができますので、ご関心のある方は是非どうぞ。（Environmental Film Festival in the Nation's Capital で 3月17日に上映。なお同フィルムは、 同フェスティバルでPolly Krakora Award 受賞。http://www.dcenvironmentalfilmfest.org/films/show/797参照）

最後に、私の好きな桜を詠んだ詩を引用させていただきたいと思います。桜は満開も美しいが、儚く散っていくさまもまたやはり美しいことを詠っています。

いし
甃のうへ　三好達治

あはれ花びらながれ
をみなごに花びらながれ
をみなごしめやかに語らひあゆみ
うららかの
あしおと
跫音空にながれ
をりふしに瞳をあげて
かげ
翳りなきみ寺の春をすぎゆくなり
み寺の
いらか
甍みどりにうるほひ
ひさし
廂々に
ふうたく
風鐸のすがたしづかなれば
ひとりなる
わが身の影をあゆまする
いし
甃のうへ

（「測量船」）

以上

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

大出理事退任のご挨拶

特命理事　大出　隆
Corporate Officer & General Manager
Hitachi Corporate Offices, DC & LA, Hitachi, Ltd.

私は2009年1月に2期目の理事となり会長を拝命しました。2年間の会長任期の終えた昨年1月からは、大辻会長の下で、特命理事として桜100周年記念事業の寄付集めを担当致しました。お陰様で、寄付金集めは皆様方のご支援、ご協力により順調に進んでおります。

桜100周年記念事業は、商工会に取りましても一大事業で、2010年春から様々な準備活動に取り掛かりました。その一つが商工会ファウンデーションの設立です。商工会は寄付金に対して税額控除の優遇措置をとれる団体ではありませんので、新たにIRS(内国歳入庁)から税法上の501(C)(3)団体としての認証を得て、非営利法人を設立する事が理事会で決められ、2010年10月にワシントン日本商工会ファンデーション(JCAWF)が作られました。

その設立から暫くして、東関東大震災が発生し、予想だにしなかった大規模な災害に、商工会として被災者の方々への義捐金を募ることとなりました。そこで商工会ファウンデーションが寄付金集めの受け皿として機能しました。その設立が、期せずして時宜を得て、震災の被災者への支援に一役買うことになったのは幸いなことに思います。この活動も皆様方のご協力により大きな成果を挙げる事ができ、この場をお借りして、改めてご協力に感謝致します。

商工会理事は退任しますが、未だ、商工会ファンデーションの任期が残っており、今後暫くの間は、その仕事に精一杯取組んで参りたいと思います。ファウンデーションは、商工会から独立した組織であるものの、商工会と共に歩む組織です。従い、今後とも何かと商工会会員の皆様方との接点は多いかと思いますので宜しくお願い致します。

最後に、商工会理事在任中に会員の皆様方から頂きましたご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

吉村理事退任のご挨拶

総務理事　吉村亮太
VP & General Manager
Sumitomo Corporation of America

2008年4月にJCAWの理事の仲間に入れていただき、この1月に退任するまで、3年9ヶ月に渡り務めさせていただきました。前半は企画行事理事として新春祭りやJ-Film上映会などのイベントにのめり込み（適材適所！）、後半は総務理事として総会や新年会などの地味（？）な分野を担当しました。また、2011年以降は東日本大震災の義援金集めや桜植樹百周年企画やその資金集めに全員で取り組んで来ました。16名から構成される理事会はいろいろな業界の方がおられますが、自分は商社マンのカラーを出して（やや出し過ぎたか？）少しでも貢献できればと思ってお引き受けしました。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

本業と理事の「二足のわらじ」は決して楽ではなかったのですが、他の理事の方々から時に厳しくご指導いただき、時にかわいがっていただき（後者の方が圧倒的に多かったです）、とても有意義な時期を送ることができました。他の方もきっと感じておられると思いますが、理事を務めることによってワシントンの日系企業と諸機関・日系人・知日派の皆さま等々と接する機会に数多く恵まれ、公私にわたり大変勉強になりました。理事になっていなければ、駐在生活はここまで充実しなかっただろうとも思います（これで駐在が終わったわけではないですが….）。ですので、まだの方は是非JCAWの理事をやられてはと思います。折りしも2012年は桜植樹百周年の節目の年。小さな所帯ながらもJCAWは実に多くのことに前向きに取り組んでおり、フレッシュな人材がいくらいても足りない状況です。

いまは開放感で一杯ですが、もっとも忙しいこの時期に退任してしまい、後ろ髪を引かれないと言えば嘘になります（でも、本音を言うとちょっとうれしい）。JCAWの益々の発展を祈りつつ、私たち4名は「ふつうの駐在員」に戻ることといたします。皆さま、たいへんお世話になりました。

市川理事退任のご挨拶

企画行事理事　市川 勝彦
東海旅客鉄道株式会社 ワシントンDC事務所長

2009年1月から3年間　商工会企画担当理事を務めさせて頂きましたが、此のたび任期満了で理事を退任することとなりましたので一言ご挨拶申し上げます。

私とワシントン商工会との関わりは溯る事1990年代の後半、まだ当社のオフィスが西海岸のロサンゼルスにあり、東海道新幹線の運行の経験やノウハウ、新時代の高速輸送機関としての超伝導リニアを将来に渡って連邦政府にPRしていくには西海岸よりも米国の意思決定が行われるワシントンDCに拠点を移転して活動していくのがベストと考え、DCへの移転準備を始めたことがきっかけでした。

まだDCに移転が完了する前から快く仲間として受け入れて下さった当事の会長や理事の皆様には今更ながら感謝に念に堪えません。
2008年の年末に理事就任の打診を頂いた時、全く迷いがなかったわけではありませんでしたが、当時の恩返しと思い気持ちよくお引き受けすることに致しました。

業務柄出張でDCを不在にする時間が多く、特に直近の2年間は米国内の高速鉄道計画が活発に議論、予算化されていたこともあり企画担当理事としての責務を全う出来たかどうかは正直申し上げて自信が在りませんが、過去3回の新春祭りを多くの実行委員の皆様の献身的な努力のお陰で無事、盛況に実施出来たことはとても良かったと思います。

初回2010年1月の場所探しから始め手探り状況で一緒に苦労した住友商事の吉村元企画担当

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

理事、もうご帰国されたJSATの岩瀬企画理事とは2回目の新春祭りに様々な工夫を20名以上の実行委員の皆さんと考え1,500人を越える方々に大変喜んで頂いたことなど、多数の実行委員の皆さんと一緒に流した汗が大変懐かしく思えます。
1月の新春祭り本番に備えて前年の9月から毎月1回様々な議論や準備の打ち合わせの為に実行委員会を定期的に開催したわけですが、その間、各準備チームのミーティングや事前の活動等、日々の仕事を抱えながらも本当に沢山の方々が実施に向けてこつこつと着実に準備を整えて下さいました。

専任の事務局組織を持たないワシントン商工会の全ての活動は16名の理事の皆さんを始めとするボランティア活動によって支えられており、全米の日系ビジネス組織としては類稀な存在だと思います。

過去に理事を務められた皆さん達が積み上げてきたこの良き伝統を今後も途絶えることなく継ぎの世代に継承し、日米関係を強化・発展させていく一助として商工会の活動が今後も活発に実施され成果をもたらすことを願って止みません。

以上

園田理事退任のご挨拶

研修理事　園田 隆則
Vice President
Honda North America, Inc.

The future of the U.S./Japan relationship is a much-discussed topic of many papers and studies. I submit the following three proposals for universities and think-tanks to consider. My proposals do not reflect the views of the Japan Commerce Association of Washington, D.C. or those of the company that I work for.

Proposal 1: To Educate Young Japanese with Visiting Americans in Japan

I propose that universities and institutions develop a program called the “American Lecture Series for Japanese university students” at the undergraduate and postgraduate levels in Tokyo. This program will help increase the number of Japanese university students being exposed to American perspectives and personalize their relationship with American leaders without going to the United States.

Now is the time to launch a program to stop the decline of Japanese interest toward the United States. Under such a program, we can utilize American government, military, business and cultural leaders, policy experts and academia who are visiting Japan to educate young Japanese people and provide for an intensive exchange of thoughts, ideas and management skills with Americans.

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

Some institutions maintain a large number of American professionals who have a good basic understanding of Japan. These institutions can make a quick start of the lecture series by mobilizing these people as their first speakers, developing the program through its contacts with the U.S. government agencies, think-tanks and major American corporations.

Proposal 2: Japanese Lecture Series for American Students

Universities in the U.S. could host a counterpart program in the United States. This program would be called the "Japanese Lecture Series". Under the program, Japanese business leaders, academia and government leaders can meet with post graduate students in Washington, D.C. and New York City to discuss issues that the two countries are faced with.

The "American Lecture Series for Japanese university students" would put priority on mass education of Japanese students whereas the "Japanese Lecture Series" would have a much more focused curriculum for post-graduate students in the United States. Japan is not a center of attention among American students and therefore, the program needs to provide educated Americans with current issues and policy perspectives. Japanese speakers would shed light on Japan, and of course, areas of mutual concern in Asia.

Universities in Tokyo and the U.S. can host the lecture series. Each school would receive positive attention in the other nation. Each school could offer a one year exchange students (the cost being offset on each side).

Proposal 3: The Need for a Think-Tank

To counteract the declining Japanese interest in the U.S.-Japan relationship and to support both of the proposed lecture series programs mentioned above, one can establish the first of its kind American think-tank in Tokyo. The think-tank would interact with universities, media and government policy makers in Japan. It can play a role as an institutional knowledge center for Japan and eventually in Asia.

Such a think-tank would help restore interest in our key bilateral relationship and the two countries' important role in regional and global stability. We may call this initiative "Vision for the Next 25 Years". The "Vision for the Next 25 Years" would introduce the global perspectives on major issues including aging society, sustainability of energy and water, global warming, economic development and creation of stable economic and political frameworks in Asia.

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「日米友好のシンボル、桜」

万延元年遣米使節子孫の会会長　村垣 孝

アメリカの桜の名所のひとつと知られ、日米友好のシンボルともなっている、首都ワシントンD.C.のポトマック河畔の桜。この桜の木を寄贈、植樹されて今年は100周年を迎えました。第52回を迎える桜祭り、全米から集まる盛大な催しが行われる予定になっています。日本からいろいろな関係者が参加され、また万延元年遣米使節子孫の会員たちも日本からこのお祝いに駆けつけることになっています。今は米国ばかりでなくなく世界の名所の一つとなりました。100年前から今日に至る米国での桜の普及とその管理に携わってきた日米の多くの人々と桜の物語は米国国立公園サービスのウェブサイトには読み切れないほど紹介されています。ワシントンへの桜の木の寄贈に大きく貢献したタカジャスターゼの発明で有名な薬学者・高峰譲吉はその映画、“アメリカに桜を咲かせた男”を通じて大変有名になりました。それ以来100年間、多くの日本の方々は桜を一人でも多くの人々に愛され、それが日米の友好に貢献できればとの願いをもって、米国各地で日本の企業、個人の方々によって桜の木が寄贈なされてきました。私の知人である世界銀行グループの元MIGA長官、寺澤芳男氏が米国を離れる前にポトマックにあるリクリエーションセンターに150本ほどの桜の木を寄贈し、今は毎年春になると素晴らしい光景を見せるだけではなくその中にあるゴルフコースに一種日本の風情を感じさせるものとなっています。このように貢献された多くの方々の思いはまさにポトマックの桜に象徴され、日米友好のシンボルとされる由縁であると思います。

櫻の木は人間の平均寿命とほぼ同じ60年から80年といわれていますが、日本では岐阜県の国定天然記念物に指定されている淡墨桜（うすずみ桜）はなんと樹齢1400年から1500年といわれるものが実在します。実はこの事実を全く知らなかったのですが、その裾分けの50本がタイダルベイシンの西側に植えられていることを知り今春はその淡墨桜を一番に見に行こうと思っています。この桜が新たな日米友好のシンボルとして何百年とこの地に立ち、その花が毎旬咲き続けることを切に望むものです。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

シリーズ～日本語教育の現状に迫る～「第五回」
「ウィットマン高校「グローバルビジネス」授業での講演

三井物産事務所所長 米山 伸郎

～日本企業とサスティナブル経営～

ワシントン日本商工会は、日本語教育支援事業の一環として実施している学校での訪問レクチャーを実施している。3月1日（木）、三井物産事務所所長米山伸郎氏が、ベセズダにある全米を代表する名門校ウォルトウィットマン高校で、日本ビジネスについて熱い講演を行った。全校生徒2,000人以上、4年生大学の進学率9割という高校での「インターナショナルビジネス」の授業で、ビルゲイツを夢見る生徒たちが米山氏の講演を熱心に聞き入った。

講演では、日本の国の成り立ちにふれ、日本がいかに古く長い歴史を持っているか、サスティナブルな社会を築き上げてきたかを強調された。その流れの中、三井物産が、『貿易』に携わることで事業を拡大し、今では関係会社を含め4万人以上、世界69ヶ国に155拠点をもつ大企業に成長してきたかを日本を取り巻く時代背景に絡ませて解説された。とくに、『貿易』という今では当たり前である経済活動の概念を、必要要件、醍醐味、難しさ、リスク、利益など高校生にわかりやすく解説され、鉄、メタル、部品、ITなどの多様な分野において、意味のあるバリューチェーンを創るSOGOSHOSHAの役割を説明した。『貿易』が拡大するグローバライゼーションの潮流の中、新興国の台頭が目覚しく、もう米国と日本の経済が世界の半分を担っていた時代は終わり、多くの国がプレイヤーになる時代が到来したと力説された。

2025年にはどのような世界が訪れるのであろうか。「君たちが30歳になっているころである。30歳は何でも挑戦できる新しいビジネスを始めるにはいい年である」という言葉に、高校生たちは大きな刺激を受けていた。新しい時代では、日本と米国が今以上に手を取り合って協力していくべきであり、世界一サスティナブルな国である日本、世界一大きな市場を持つ国アメリカはシナジーを持つことを強調された。日本の技術力・資金力と米国のイノベーション力・技術力が結合し、世界規模の課題をいっしょに解決していくことを願っていると学生たちにエールを送られた。プレゼン終了後、最初の質問は、震災後の影響であった。「東北オフィスはしばらくの間休業となったが、グローバルに多様な事業を展開する同社では全社的業績を左右するほどの大きな影響ではなかった。現地で交代制でボランティア活動を始めた。アメリカのサポート、特に米軍の『ともだち』作戦には非常に助けられ感謝している」と回答された。また、世界人口増加のビジネスのインパクトや石油や石炭に変わるクリーンテクノロジーについても質問が出た。最後に今年は「ポトマック河畔のさくら寄贈100年」という特別な年にあたることを述べ、日米関係の将来を担っていく新世代への期待を寄せていると締めくくられた。

今回の講演では、日本企業のパワー、日本経済の底力が生徒たちの頭に焼きついたと考えられる。講演後、米山先生に話しかける生徒たちを見て、「日本語を勉強してみたい、日本に行ってみたい、日本のビジネスをもっと理解したい」と考える学生が数多く出るに違いない、そんな講演内容であった。

文責・写真：小林知代 / 大久保奈歩

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

U.S.-Japan Task Force Holds Second Meeting

Sumitomo Corporation of America, VP & General Manager 吉村 亮太
Honda North America, Inc. Vice President 園田 隆則

Members of the "Mansfield Foundation Task Force on Crafting a Contemporary U.S.-Japan Vision for Shared Progress and Prosperity" met for the second time December 13-16 in Tokyo.

This task force, a partnership with the Japan Commerce Association of Washington (JCAW) and the Japanese Chamber of Commerce and Industry of New York (JCCI), was launched last year in commemoration of the 2012 centennial celebration of Japan's gift of cherry trees to the United States. The task force is comprised of American and Japanese experts from the private sector, academia, and government, including alumni Mansfield Fellows and U.S.-Japan Network for the Future participants. It is guided by a Senior Advisory Committee that includes Mansfield Foundation Board members Tom Schieffer (former U.S. Ambassador to Japan) and Alicia Ogawa (Senior Advisor, Columbia Business School) as well as Kent Calder (Director, Edwin O. Reischauer Center for East Asian Studies and Director, Japan Studies, SAIS).

Members of the task force heard perspectives from the Japanese Diet. Pictured here are the Honorable Yoshimasa Hayashi, the Honorable Mieko Nakabayashi, and Senior Advisory Committee member Kent Calder (SAIS).

During three days of meetings in Tokyo, task force members met with international business representatives, Japanese government and private sector leaders, young scholars, and U.S. embassy officials. They also further developed a vision statement and strategic initiatives that emerged from their first meeting in Montana last September. The culmination of the task force's work will be a spring event in Washington, when the group's preliminary conclusions will be shared with the policy community and the public. For a full list of participants and more information about the task force, please click here.

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「世界の医療最先端現場（NIH）からのメッセージ（その5）番外編　洞窟魚のスーパー能力」

Laboratory for Evolutionary Developmental Biology, Department of Biology,
University of Maryland, College Park
Postdoctoral Research Associate 吉澤　匡人

日本商工会の皆様、こんにちは。

私はNIHではなく、メリーランド大学カレッジパーク校で進化学の研究を行っています。本シリーズNIHからのメッセージ（その1）を執筆された赤畑さんに「是非」と誘って頂き、寄稿の栄を頂きました。

私は洞窟の暗闇に生息する洞窟魚を通して「進化学」にこの7年間従事してまいりました。皆さんに直接役立つことはないのですが、「面白そう、へぇ～」と楽しんで頂いたり、好奇心に触れさせてもらえれば幸いです。

1.　「進化学は科学なの？」

進化学は生き物の変化を扱う学問です。恐竜の子孫から鳥類が生じたとか、ヒトはサルと祖先を同じくするなどです。でも、ところで皆さんは「進化学って科学なの？」という疑問を持たれたことはありますか？実は、私自身がそう思って進化学を敬遠していました。私の場合、その主な根拠は「再現不可能だから」でした。ヒトの手で恐竜の進化を再現することは不可能でしょう（19年前(!)の映画ジュラシックパークでは恐竜を再現していますが、実際には現在でも不可能です）。

しかし、同じことは地質学や天文学にも当てはまります。海底に堆積した土の層が地殻変動で地上に持ち上げられることを再現することは不可能でしょう。また、宇宙に漂うガスの塊からこの太陽系が産まれてくることを再現することも不可能に思えます。では、再現不可能な現象を扱う進化学、地質学や天文学が、科学として成り立つ理由は何でしょうか。そもそも科学とは何だということで、いろいろ調べてみますと、パラダイム論なるものが科学を説明できるらしい。でも、パラダイム論はなんだか難しくて、例えば「観察とは、データをパラダイム（特定の見方・考え方）に基づいて能動的に意味付ける行為云々・・・」──結局よく分かりません。

よく分からないから私なりに定義し直しました。つまるところ、科学とは「自然を観察・解釈して、結果、未来予測まで応用できる（かも知れない）学問」と言うことではないでしょうか。未来予想という点で、地質学では、ハワイ諸島はいずれ日本列島にぶつかって日本の国土になることがきちんと予想されていますし（国土に認定されるかどうかは政治の分野）、天文学からは、「彗星が地球にぶつかりそう」とか予想したりします。そして進化学は、今後ヒトがどう進化するのかについても予想を与えられます（＊注：興味のある方は本稿末）。

どうでしょうか。進化学は科学であると説得できたでしょうか？私自身はこれで納得しましたが、むしろ怪しくなりましたか？いずれにせよ、話を進めてしまいます。

2.　美容整形や品種改良は進化なの？

さて、進化学は生き物の変化を扱う学問と述べました。ここで重要なのは、その変化は世代を超

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

えて伝えられるものでなくてはならないという点です。

まつげを抜いてまつげを濃くしたり、美容整形で体型を変えても、それらは子供には伝えられないから、進化とは言えません。

では、何が子供の世代に伝えられるのかと言うと、引っこ抜いて濃くする前のまつげの本数だったり、美容整形に通う前の体型だったり、身長だったり、視力だったり、神経質さ加減など生まれながらに持っている特徴が次世代に伝えられます。ポケモンの“進化”は世代を重ねていないので進化ではありません。

ところで、もう一つ進化と似た現象に「人為選択」という生物の変化があります。人為選択と言うと優生学を思い浮かべ、怖いイメージを持たれる方もいるかもしれませんが、品種改良と同じです。品種改良は、例えば乳をいっぱい出す乳牛を作ったり、よりおいしい米をつくったりする手法で、こうした特徴は世代を超えて受け継がれます。

このいっぱい乳を出せたり、糖度が高くなったりすることは、野生種には無い性質で進化と何ら変わらなそうですが、これらの生物には進化学で扱う生物とは決定的に違う点があります。

そうです、彼らは人間の保護を受けなければ生きていけないのです。その最たる例は、先日友人から聞いた話です。ブルドッグ（犬はもともとオオカミを人為選択）は、戦わせたらオオカミより強いそうですが、お産のとき頭が大きすぎるから帝王切開しなければならないそうです。自然環境では一代でお家断絶です。だからブルドックは他の犬よりお値段が張るそうな・・（＋帝王切開費）。そのほかの品種改良されて来た生物はみな、人間が手間ひまかけてやらねば現在の性質を保つことはできないのです。

一方、進化した動物はどうでしょうか。彼らは「向上的な性質」を維持しながら、たくましく自力で次世代に子孫を残せる生物なのです。

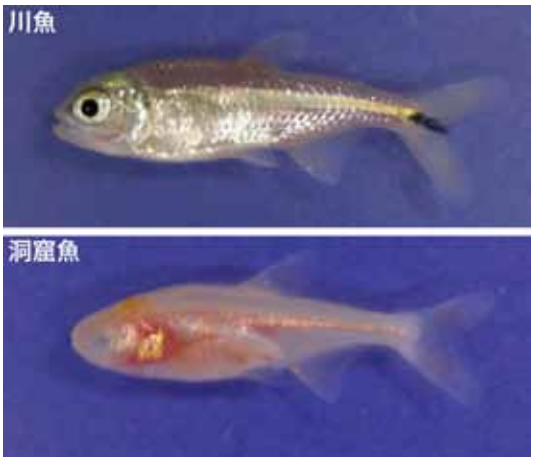
イルカやクジラは水辺に住むカバのような祖先から進化しました。前足は前ビレに、しっぽには後ろビレが進化し、前頭には脂でできた音波集中装置（メロン器官）を進化させています（全て水中での生活に適した向上的な器官）。

その一方で生きた化石と言われているカブトガニや、シーラカンス、ゴキブリは数億年も同じような形を保っています。彼らは進化できない時代遅れの生物かというと、そうではなく、早々と最強／完璧な形態に進化してしまったから、同じ形態でいられるのです。そうでなければ生き物の体はあっという間に（数十世代の間に）変化してしまいます。ゴキブリは皆さんもご存知の通り、圧倒的な繁殖力とタフネスで他を凌駕しています。元来森の落ち葉の分解者だった所が、あの形を変えること無く人家を含むいろんな環境に適応してしまっています。

どうです？進化を通して見ると、日常が違って見えませんか？

3.　洞窟魚の進化

（1）メキシコ洞窟魚の由来



さて、そろそろ洞窟魚の話をしないと怒られそうなので話したいと思います。私が使っている洞窟魚はメキシコ産の石灰岩質の山洞窟に住んでいる淡水魚です。親戚はネオンテトラやピラニアといった中南米原産の魚です。この洞窟魚、目も体色も退化してしまっているのですが、今も同種に川魚がいて、こちらは目も体の色もある普通の魚です（写真右）。この普通の魚と同じ形の祖先が、およそ100万年前、パナマ海峡が塞がると同時に南米から中米、北米へと進出してきました（メキシコは北

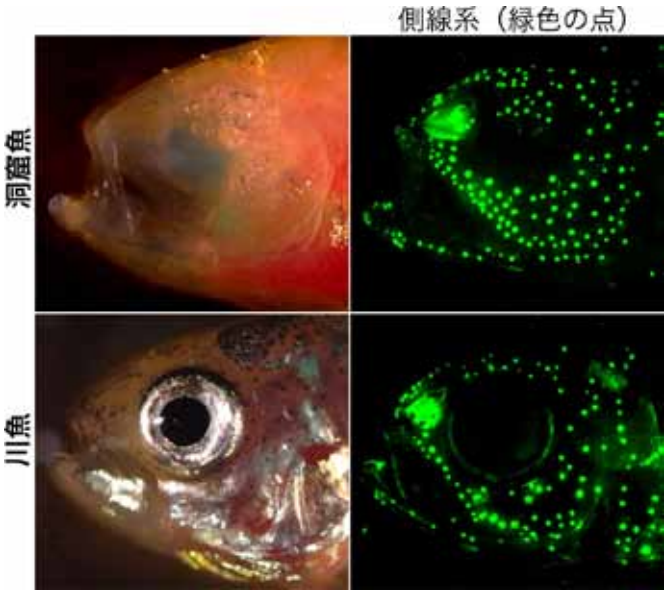
JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

米です）。この頃、同時にメキシコ東側海岸にあった巨大な珊瑚礁が徐々にせり上がって陸になり、石灰岩質の山となりました。石灰岩でできた岩は酸にとても弱いので、 大気中の二酸化炭素が水に溶けた弱い炭酸でも徐々に溶けていきます。石灰岩が溶けて洞窟になった所に、たまたま落っこちて出られなくなった川魚が、やがて時を経て洞窟魚へと進化していったのです。この洞窟環境、ルーレイ洞窟等に行かれた方もおられるかもしれませんが、電気を消されてしまうと本当に絶望的です。真っ暗闇は本能的な恐怖を与えます。更に、光が無いということは植物が生えず、食料も極端に少ない。あってもコウモリの糞か、雨期に 流れ込んでくる有機物くらいしかありません（写真右）。こんな過酷な環境で生き延びられる生物はとても少なく、洞窟魚がいる池には、微生物を除いて洞窟魚しかいません。つまり、洞窟魚はメキシコ洞窟環境で最大最強なのです（体長12−15cmですが最大最強です!）。

（2）洞窟魚の進化──極限環境とスーパー能力と私

さて、この最大最強動物が、目や体色を失う代わりに手に入れたスーパー能力（＝向上した能力）とはどういうものでしょうか。

それらは飢餓に耐えたり、暗闇で餌を捉えたり、交尾相手を見つけたりする能力と考えられます。これまでに優れた研究者達がこの能力の発現に関わりそうないろいろな形態を報告しています。下顎の拡大、数の増えた歯、味蕾（魚は口の外にも味蕾があり、餌の探知に役立ちます）、拡大した嗅上皮（鼻の匂いセンサーです）、数もサイズも大きくなった側線系（水の流れを感覚/lateral line system：図4）、脂肪を多く蓄えた体腔、水底の餌を捉えやすい姿勢等です。



特に数やサイズが増えているセンサー系（味蕾、嗅上皮、側線系）は、餌を捉えるスーパー能力に関係しそうですね。大切なことにこれらセンサーは人の保護を受けた乳牛やブルドックの場合と違って自然選択で増えて来たものだという事です。だからきちんと経代できるよう他の器官とバランスされています。

こんな凄そうな器官ですが、どこをどう調べてみても、「どうして数が増えることが有利なのか」、「増えたセンサーからの情報にどう対応しているのか（脳が大きくなるとか？）」、「どんな遺伝子がスーパー能力に関わっているのか」等について、全く分かっていません。面白いのに。そこで私がやるしかなかろうということで不肖私吉澤が 日本の博士課程で鍛えた腕とともに渡米して来ました。

まず先の優れた研究者達の論文を調べ、どういうことが洞窟魚で分かっているかをつかんだ後、「スーパー能力を捉えるなら行動をみろ！」と言う考えに至りました。理由はまったく単純で、優れたセンサーを持つ→餌の在処を捉えやすい→洞窟魚は川魚よりも餌をいっぱい取れる（行動）、というロジックです。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

そこで、いくつか報告のあった洞窟魚の行動を追試してみました。試行錯誤で人生初の行動実験装置をセットアップし、行動を解析してみたものの論文の様にきれいなデータはでません。「この論文、間違っているのでは？」と自身の実験技術の未熟さを棚に上げ、また試行錯誤を繰り返す。私のボスは発生生物学者／進化学者で、行動実験には興味は無いが「なんか意味ありそうだから頑張れよ」と太っ腹な構え。自由に実験できる環境は幸運でしたが、なかなかうまく行かず、行き詰まる毎日・・・。

しかし、ちょっとしたことから洞窟魚が振動しているホースに集まってくる行動を発見！私は、即座にこの新しい行動に研究をシフトしました(ビデオあります：http://www.physorg.com/news203702762.html)。

川魚は明るい所でも暗闇でも、振動している物体には寄って来ません。

しかしいろんな周波数の振動刺激を与えると洞窟魚は特定周波数（30-40 Hz）に特に近寄ってきました。魚は水中振動を側線系と耳（内耳）で捉えることができます。この30-40 Hzは、耳より側線系器官が得意とする周波数であることが分かっています。薬剤や削除実験で確かめてみると、やはり側線系がこの行動(vibration attraction behavior: VAB)のセンサーであることが判明しました。

さて、ここで大きな問題が残っています。このVABっていったい洞窟魚のスーパー能力なのでしょうか？カギは30-40Hzの振動が「どこからくるか」です。振動源の候補としては、（1）洞窟天井からの水滴が水面にあたる時の振動（水滴には土中有機物が含まれ、餌になります）、（2）土中のプランクトン（これも餌になります）が水中でもがく時に出す振動、（3）洞窟魚が餌を見つけてそれに噛付いている時の振動、（4）交尾行動を開始した時の振動が、考えられました。

実はこれらもよく分かっていなかったので、論文を探したり、洞窟魚の出す音を録音したりした所、（1）～（3）の餌に関連した振動スペクトラム（太陽光をプリズムでいろんな色（＝周波数）に分解でき、スペクトラムが得られると同様に、音・振動もフーリエ変換等言う手法を使っていろんな周波数に分解できます）は、全て30−40 Hzに強い成分を持つことが分かりました(4の交尾行動についてはまだ計測できていません)。つまり、30-40 Hzの振動は少なくとも餌の在処を示すシグナルであることが分かりました。VABは餌を探し出すのに有利っぽい。

更に決定的にするため、VABを示す洞窟魚とVABを示さない川魚を洞窟のような暗闇におき、プランクトン餌を滴下して洞窟魚と川魚どちらが多くえさを食べられるか試験した所、洞窟魚が圧倒的に多く餌を食べてしまいました（嗅覚系と味蕾系が関係ないことは別実験から示しました）。

以上の実険からVABが洞窟内でスーパー能力であることが分かり、側線センサーの増加がスーパー能力の進化に直接関わっていることを突き止めました。これまでの進化の研究では、いっぱいセンサーがあることだけ見て「何かに」役立つだろうから「適応的なセンサー」と言われてきましたが、今回初めて「どう有利か」がわかり、更なる進化の理解に大切な一歩を踏み出せました。

(3)未来への更なる理解のために

今は（1）増えたセンサーからの情報にはどうやって対応しているのか、（2）どんな遺伝子がスーパー能力に関わっているのか、について鋭意研究しています。

（1）については、側線系に神経トレーサーを入れて脳への投射先を調べた所、どうやら洞窟魚の脳内の投射先は川魚のものより二倍に膨らんでいました！

同種でこれだけ違うことは驚くべきことです。例えば、2コアCPUから4コアCPUに進化したようなものです。今後は増えた側線系器官らの情報がどういう風にプロセスされているのか、増加した脳内領域が行っている情報処理を、神経の電気的活動特性を調べることで解明していきます。（2）の遺伝子については、現在までの遺伝解析からVABの進化には2つ、側線系の進化には3つの遺伝子が関わっていることが分かってきました。最先端のDNA解読（次世代シーケンシング）技術を組

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

み合わせることで、これらの遺伝子がいったいどんな遺伝子なのか、同定していきます。

以上、まだまだ途上ですが、分からなかったことがだんだん明らになってきました。極限環境で生き延びる為、その進化ポテンシャルを限界まで引き出して適応して来た（であろう）洞窟魚は、生き物がどのようにスーパー能力を進化させるのか教えてくれる、とても優れたモデル動物です。この研究を発展させていくことで、ヒトが脳を巨大化させて来たメカニズムの理解にも貢献できると考えます。

わたしは、洞窟魚を扱う前はマウスの神経系を扱っていました。解剖のたび、「なんでこんなに脳が大きいのだろう」と不思議に思い、特に大きな脳の領域、大脳皮質の形成（発生）メカニズムを調べていました。しかし、進化的な視点で見なくては、結局巨大化した理由は分かりません。学位を取った後、一大決心をしてアメリカの現研究室に所属させて頂きました。なかなか困難で孤独（実験を相談できる相手がいない）な環境でしたが、常に応援してくれる家族と、ボスと、ラボメンバーに支えられてここまでやってきました。
恩返しする為にも、エキサイティングな仕事をしていきたいと思います。

＊注：ヒトの進化について。
生物が新たな種を形成する必要条件として、「母集団からの生殖隔離」と「小集団化」が知られています。つまり、小さな辺境の村で、他の集落と交流がほとんど無ければ、新たな種（進化した遺伝子を持つ集団）が現れる可能性があるのです。でも、現在「グローバル化」で、そうした可能性は減る一方です。しかし、今後ヒトが宇宙コロニーや火星に住み始め、ヒトの行き来の少ない小集団が形成されれば、新たな種が産まれる可能性があります。5千～1万年くらいかかると思いますが、まさにニュータイプ（ガンダムより）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントンおとめ　Vol.6

日本でも一世を風靡したドラマ「ER救急救命室」をご覧になった方も多いと思います。まさにあのERに出てくるような救急救命医でありながら、プロのハープ奏者という多彩な才能の持ち主の竹松舞さんにお話を伺いました。。

～略歴～

竹松　舞（たけまつ・まい）

仙台市出身。幼少時に滞在したアメリカでハープと出会い、帰国後ヨセフ・モルナール氏に師事。1991年日本ハープコンクール・ジュニア部門で2位（最年少）。93年同コンクール優勝。96年フランスでの国際ハープコンクール・ジュニア部門で3位。97年「ファイアー・ダンス」でCDデビュー。通算6枚のCDとDVD1枚をリリース。98年、第8回出光音楽賞を受賞。

07年順天堂大学医学部卒業、横須賀米海軍病院で研修。2009年からワシントンDCで救急救命医療の臨床研修中。

—現在の仕事内容を教えてください。

「ワシントンDCにある病院のER（救急救命室）で働いています。お産や虫垂炎、外傷、脳卒中、肺炎などありとあらゆる病気やけがの治療にあたります。シフト制なのでその日によって勤務時間帯が異なりますが、たいていは食事休憩などなく、患者さんを診察し続けています。夜9時から朝7時までの夜勤では、（日により増減はありますが）20人ぐらいの患者さんを担当することになります。平均して週6日の勤務ですが、1、2週間連続で働くことも少なくありません」
「高血圧や糖尿病などの基礎疾患を抱える人が重症な状態でERに来るケースが多く、そういった場合の救急対応と治療、原因究明はとても緊張感を伴う仕事です。運び込まれた時点で患者さんのカルテがあるわけではなく、あるのは目の前にいるしゃべれる状態にない患者さんの体だけといった状況で、その人に何が起きているのかを判断し、治療を開始しなければいけないといった事態も頻繁に起こります」

—数多くある医師の専門領域のなかからERを選んだ理由は？

「1つの科にとどまらず、小児科、外科、産婦人科、老年期医療まですべてを担当できるバラエティーの広さに魅力を感じました。入院中の旦那さんのお見舞い中に股関節が外れてしまったおばあさんの関節の修復や包丁で手を切ってしまった主婦の傷の縫合、銃で撃たれた少年の治療、駐車場で今にも生まれそうな赤ちゃんのお産など非常に幅広い分野です」
「ERは夜間や緊急で運ばれてくるすべての患者さんの窓口で、その人たちの予後がかかっている場所でもあるため、非常にやりがいがあるなあと。また、医者として必要なスキルを学ぶにはERが最適だと考えたことも理由の1つです。どんな患者さんが来ても怖くなくなる度胸をつけるにはぴったりの職場だと思いました。実際に、ERは全く予想できないことの連続で、変化にとんだびっくり箱のような世界なんです」

—ワシントンで仕事をすることになった経緯は。

「4歳から6歳まで医師であった父の仕事の関係で、米ミシガン州（アナーバー）に住んでいたため、米

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

国に対する単純な憧れというものはありませんでした。ただ、医学部在学中、ハーバード大学に研究に来て、医師を育てるための教育水準の高さを目の当たりにし『ここで働けばいい修行になるのではないか』とアメリカで自分を試してみたい気持ちが芽生えました。卒業後はまず研修先として、横須賀の米軍基地にある米海軍病院を選びました。公用語は英語、使う薬も治療方針もすべてアメリカ仕様のこの病院ですべての科を回り、実践でのスキルを習得しつつ、その間にアメリカの医師国家試験に合格しました」

「勤務先の病院が決まるプロセスは外国人用の別枠があるわけではなく、アメリカの医学生に混じって希望の病院のポストを取り合います。医師国家試験に合格した後、行きたい病院に申込み書類を送り、書類選考を経て、数十分の一の確率で面接に呼んでもらうことができ、面接後、各病院は申請してきた医者の卵たちをランク付けし、行きたい病院の上位に自分がランク付けされていてば採用されるという仕組みです。他の都市も含め、いくつかの病院を訪ねましたが、ERの規模の大きさや先輩医師たちの雰囲気の良さなどから現在の病院（Washington Hospital Center/Georgetown University Hospital）に決めました」

—ERの仕事で特に大変な点は何ですか。

「やはり体調管理でしょうか。日勤、夜勤が交互にやってくるので体内時計の管理が非常に難しいです。生死がかかっている患者さんが数多く運ばれてくるERではとにかくスピード勝負。寝不足だからと言ってぼーっとすることは許されません。すでに手一杯の状態のときでも容赦なく次々と急患が運ばれてくることもあり、すべてが予測不能なところもERの難しさの一つです」

「ERの治療は本当に日進月歩なので、教科書に書いてあることだけでは到底対応できません。最新の症例などを扱った論文などでせっせと勉強する必要があります。毎月、症例発表会などで先輩医師の前でプレゼンテーションしなくてはいけなかったり、医学生に講義したりとERのシフト勤務以外にやらなくてはいけないことが山ほどあり、本当に休む暇がありません。1日24時間ではまったく足りないと切に思います（笑）」

—医師として働くうえで、ワシントンならではの特徴はありますか。

「オバマ大統領やファーストファミリーが万が一のときに診察を受ける体制ができているかチェックするため、シークレットサービスの人が来ることもあります。私たちの指導医が働いているホワイトハウスに行って、ホワイトハウスの医師たちと情報交換をする機会もあります」
「DCはHIV患者の率が非常に高いので、その関連の疾患で訪れる患者が多いですし、ホームレスが宿を求めてスーツケース持参で来ることもあります。また、DCだけではないのですが、アメリカでは『drug-seeking』といって、強い薬を求めて病院に来る人がかなり多いです。こちらの治療では鎮痛目的などのために麻薬系（モルヒネ系）の薬をごく当たり前に使うので、薬物中毒の人がそういった薬や注射欲しさにERに来るというわけです。ときには『強者』がいて、『ほかの薬にはすべてアレルギーがある』と語り、ピンポイントで麻薬系の薬を指定してくる人もいます。痛がる芝居をして薬をもらいに来る人も。病院にはこういった人のブラックリストがあり、要注意人物としてカルテにメモ書きされています」

—今後のキャリアプランは。

「2009年夏から勤務している現在の病院でのプログラムは今年の夏に終わります。そのあとは、ERのなかの専門分野である毒物学の研修をするため、ニューヨークの病院に移る予定です。毒物学は聞こえがものものしいかもしれませんが、あらゆる薬の中毒症状などを中心に、サリン・一酸化炭素中毒、あらゆる常用薬物などを扱うもので、専門的に勉強すれば、普段みている症状や薬がより深く理解でき、ひいては医学全般ももっとよく分かるようになるのではと思います。NYでの研修は2年間の予定です。そのあとはアメリカで続けるか日本に帰るか、まだはっきりとは決めていません。ただ、日本には医

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

学と直結した毒物センターが存在しないので、その分野の認識を広める一助になりたいという気持ちはあります」

—オフの過ごし方を教えてください。

「毎月の病院での症例発表会や医師向けのレクチャー、医学生への講義の準備、論文の書き上げなどに追われていることが多いです。土日が休みになることが少ないため、友達ともなかなか会うことができないのが難点ですね。非常にストイックな生活をしていると思います（笑）」

—プロのハープ奏者でもいらっしゃいますが、ハープを始めたきっかけを教えてください。

「アメリカ滞在中の幼少期に初めてハープの存在を知りました。3歳から弾いていたピアノより更にやわらかい音色に魅かれ、帰国後の9歳のとき、習い始めました。ハープの先生は少ないため、仙台に住んでいたときは東京のオーストリア人の先生のところまで新幹線で通ったりと苦労しましたが、やり始めたらとことん成果が出るまでやらないと気がすまない性格なので、続けることができたのでしょうね。先生の期待に応えたい、という思いもありました。ハープは40キロぐらいあるとても重い楽器ですが、肩にもたせかけて弾くと自分と一体になれる感じがする躍動感のあるところが一番の魅力です」

—ハープの活動歴は。

「9歳で始めたあと、10歳、12歳のとき、国内のコンクールで準優勝、優勝、16歳のときには海外のコンクールで3位となりました。16歳でプロとしてデビューアルバムを発売、その後は毎年アルバムを発表しました。ハープ奏者の女子医学生というのが珍しかったのか、『ニュースステーション』や「徹子の部屋」などテレビ番組にも出る機会に恵まれました。NHKワールドの音楽番組で、全編英語のビデオジョッキーを務めたこともあります。そのほか、パイヤール室内管弦楽団とフランスでレコーディングさせて頂きました」

—ハープと医師の仕事の「二兎」を追うことを決めた理由は。

「とても自然な選択でした。二兎を追おうと決断したわけではなく、物心ついたときから自分の一部だったハープを続けたいという思いと、ずっと興味を持っていた医学を勉強したいという気持ちが一緒になったという感覚です。医学生時代も1日に2～3時間はハープの練習をしていました。くたくたで帰ってきたあとにさらにハープの練習というのは体力的な挑戦ではありましたが、皆さんの応援にも支えられ、何とか続けることができました」

「学生時代はもっと勉強に時間を割きたいときに、机から体を引きはがすようにしてハープに向かうことが多かったので、今はその反動で思い切り勉強に時間を費やしたいという気持ちがあります。その均衡がとれたときに、今までよりもっといい音色でハープを鳴らすことが出来たらいいなと思っています」

（聞き手は袴田奈緒子）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

桜寄贈100周年記念特別企画
「映画で語るワシントン桜寄贈100周年」

“ワシントンで映画を語る会”のメンバーによる共同執筆

1.はじめに

“今年は何の年”とワシントン地区在住の者が問われれば、ほとんどが“日本が桜を米国に寄贈、植樹してから100周年を迎える年”と答えることと思う。本コーナーでは、これまでワシントンの映画好きによるリレー執筆で映画に関する話題を提供してきたところであるが、今月は 通常とは趣をかえ特別企画として、桜寄贈100周年に関わる映画の話題等を提供し、微力ながらこの記念すべき年の節目の月を盛り上げることとした。

実は、昨年の7月に本連載が開始されてからその執筆者やワシントン地区在住の映画好きにより“映画を語る会”なるものができている。そのメンバーは、ハリウッドものからインディ、或は、黒澤や成瀬、更に怪獣物から超B級映画までと幅広い分野をカバーしているため、早速「ワシントンの桜」に関連する映画情報について照会したところ、意外に苦戦！！日本の映画では桜を題材にしたもの星の数、桜の数ほどあれども、ワシントンの桜に関するものは極めて少なく、また、外国の作品では、SFや怪獣と桜の親和性が良くないのでその分野ではないことは当然としても、数あるワシントンで撮影された映画の中にも、あの印象的なワシントンの桜のシーンは見たことがないとか。ワシントンの桜に限定すると関連映画が極めて少ないことが判明し、あわや本企画は“没”の瀬戸際に。

ワシントン記念塔と桜：ワシントンで撮影された映画にはこうした映像が多数登場するはずと始めた企画であるが．．．

しかしこの程度の事で諦めては、桜をこの地に咲かせるまでに幾多の困難にも関わらず決して夢を諦めなかった、シドモア女史、ファアチャイルド博士、高峰譲吉博士などなどに会わす顔が無いと、粘り強くワシントンの桜が出てくる映画探しを続けるとともに、ワシントンの桜に限定せずに、桜の映像が印象的な映画（但し、日本の映画除く）や、ワシントンの桜を「日米友好」の象徴として捉えそのテーマに沿った映画も含めることとし、本企画を実施とすることした。（前回執筆者から指定されたキーワードも「日米友好」。）

2.桜寄贈100周年記念関連映画大総括

まずは、日本から米国への桜寄贈の関連映画としては、日本のものでは「Sakura Sakura - サムライ化学者高峰譲吉の生涯」及びその続編「TAKAMINE アメリカに桜を咲かせた男」がそのものズバリの作品としてあり、また、続編で主題歌を歌っていた白井貴子（バレーボールで活躍した選手ではない）が監督第一弾として、30年以上に渡り米国の桜植樹に奔走したエリザ・シドモア女史の生涯を綴る「サムライガール エリザ・シドモア」を撮影中との話もある。しかしながら、このテーマ

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

での外国映画は残念ながら見当たらない。
一方、ポトマックの桜の映像が登場する映画については、前述したように当会会員の誰もが思いあたらないということから、あまり印象に残るような使われ方はしていないようだ。確かにキャピタル、ホワイトハウスは言うに及ばす、世界銀行のビルなどは見たが、あの桜が出てきた記憶はない。しかし、ワシントンで撮影された映画自体は、アカデミー受賞作品の「フォレストガンプ」から、「JFK」などの大統領物、「ハンニバル」などのサスペンス、更には「トランスフォーマー」、「マイノリティレポート」などのSF、アクションものに至るまで結構多いので、桜の映像も必ずあるはずと考えて更にクエストは続く。

イーストポトマックゴルフコースの14番：グリーンが桜に囲まれており、ゴルフをしながら花見ができる。

まずはワシントンでの映画撮影誘致を支援するフィルム・コミッションの役割を担う“DC Film Office”を探し出し、何度も電話及びメールで問い合わせをするも、返事すらなし。よってここは諦めて、次にワシントンの桜祭りの総元締のような、“National Cherry Blossom Festival”事務局に問い合わせたところ、いろいろ親切に調べてくれたが、映画情報はなし。その代わりにポトマック公園での撮影の際に許可を出す“US National Park Service”のベテラン担当者を紹介された。これが最期の切り札と直接お話を伺ったが、彼曰く、ドキュメンタリーではいくつかあったものの、私の知る限り映画の撮影がされたことはない、とか。以上の調査結果と、質量ともに充実した当会会員の一人もそのようなシーンに記憶がないという話などから、ワシントンの桜の映像を使ったアメリカの映画はないとの結論に至った。しかし、そんなことがあっていいのか？私が監督としてワシントンで映画を撮影するなら、必ずあの桜のシーンを使うのだが．．．
アメリカの映画関係者にとってはあの桜に私たちが感じているような価値を見いだしていないのか、まったく不可解な結果となってしまった。

さて、気を取り直してその他、ポトマックの桜に関連する映画のお話としては、その実現に尽力されたのは人物として忘れてはならないのがタフト大統領夫人であるが、その夫のタフト大統領はオハイオ州シンシナティ出身、今や映画界の大巨匠、スティーブン・スビルバーグも同じ出身地。また、桜がポトマック沿いに植えられた1912年には、何とあのタイタニック号沈没事故があり、この事故を映画にしたのはご存知「Titanic」。また、寄贈された桜が育ち第一回桜祭りが行われたのは15年の後の1927年になるが、この年にはリンドバーグが大西洋無着陸単独飛行成功しており、それを映画にしたのは言わずと知れた「翼よ、あれが巴里の灯だ」である。

外国の作品で桜自体の関連映画としては、インターネットで「Cherry Blossom」で検索すると、そのままの題名のドイツ映画「Cherry Blossoms(Hanami)」があり、日本のお花見のシーンが多くでてくる。アメリカ映画ではタイトルにCherryが付く映画はかなりあるが、桜ではなく別の意味で使われておりろくな物がない。なぜかSFアクションもので、シャーリーズ・セロン主演の「イーオンフラッス」のラストあたりに桜の森でのアクションシーンあったたように記憶しているが、日系の監督だったからだろうか？　目新しいところでは、今年のアカデミー賞短編ドキメンタリー映画部門にノミネートされた、イギリス人監督による東北大震災関連映画「The Tsunami and Cherry Blossom」には桜が心の支えとして登場する。（残念ながらアカデミー賞受賞はならなかった。）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ここで花としての桜から離れて、ワシントンの桜は“日米友好のシンボル”という切り口で捜すと、日米友好に関連する映画としては、なつかしいところでは「レッドサン」から、「カラテキッド2」、「ブラックレイン」、「ミスターベースボール」、「ラストサムライ」、最近では「ラーメンガール」などがある。

3.関連映画について語る

それでは以上に紹介したものの代表例について、それらを実際に観たことがある“映画を語る会”の会員に少し詳しく語ってもらった。

1)「Sakura Sakura」　　黒澤ぽちこ

桜寄贈100周年を迎える2012年春が近付くに従って、この桜に深く係わった高峰譲吉にまつわる伝記映画への関心が急速に高まっているように思う。これらの映画を見るまでは高峰博士が富山県出身である事も、高峰の妻が米人である事も知らなかったことを思うと映画の力の偉大さを改めて知らされた感じだ。

高峰譲吉を主人公として扱った「Sakura、Sakura　―サムライ化学者高峰譲吉の生涯」の監督を勤めた、市川徹監督は1990年代はアダルト映画で一世を風靡し、2000年代に入ると一転、徹底してヤクザ映画路線をひた走り、2010年代は一環して高峰にのめり込むという日本を代表する風変わりな監督の一人だ。(黒澤とは違う)「Sakura、Sakura」(2010年)の翌年に公開された「TAKAMINE　ーアメリカに桜を咲かせた男」(2011年)でも監督を務め、また、別の高峰もの、「フレンズ(仮題)」の製作も予定中とか。

桜の寄贈が最終的に東京市長の尾崎行雄と高峰譲吉の貢献大として後年伝えられているが、実際このプロジェクトを起草したのは当時の駐米日本大使高平小五郎と時の外務大臣小村寿太郎の連携で有ったことを忘れてはならない。2人は日露戦争の終戦処理会場となったポーツマス会議の日本政府代表苦労人コンビだ。日露戦争を扱った1980年公開の日本映画「203高地」の主題歌さだ・まさしが歌う「防人の詩」が何故か満開の桜と瞼の奥でダブルのだが、桜は日本人の心を写し出しているからだろうか。

＊なお、「Sakura Sakura」は、3月及び4月、ANAワシントン―成田便の機内で上映されるとのこと。

ワシントン・レーガン空港のおみやげ売場：桜の季節になると桜まつり関連グッズが登場、ワシントンへの桜寄贈の精神である日米の「友情」の文字も

久々に尋ねた東宝桜祭り(まんが祭りではありません)の出し物：なつかしのウルトラマンはじめ皆元気でした

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

2)「Cherry Blossoms」　チェブ子

日本の桜と舞踏をモチーフにしたドイツ映画です。「外国人が見た日本」を、楽しむにはぴったりの映画ではないでしょうか。ストーリーは少し仕掛けがあるため秘密にしておきますが、主人公のドイツ人が東京を訪れるシーンは丁度桜の時期。公園で宴会に興じる人たち、スワンボートに乗って花見をする親子、そして満開の桜の中、想いを込めて踊る少女「Yu」。淡い控えめな桜の色が画面に溢れ、郷愁をそそります。この少女を演じる日本人、入月絢さんは若き舞踏家で、国際的に活躍中とか。可愛らしい容貌ながら、白塗りの化粧をし、薄紅色の着物を着て踊る姿ははっと息を飲むほどの迫力があります。この映画はどちらかと言えば「単館系」であるため、映画館で観る機会はなかなかないでしょう。しかしここはインターネットの時代。NetflixやAmazon Instant Videoでも観られます。今すぐ観たい方は、オンラインでどうぞ。

3)「Last Samurai」　ちび◯子

新渡戸稲造はその著『武士道』で、欧米人が好むバラを例にとり、日本人の愛でる桜の花と対比させて、以下のように語った。

> わが桜木は、その美の下に刃も毒も隠しておらず、自然が呼ぶ時にいつでも生を捨てる準備ができている。その色は華美ではなく、その香りは淡く、人をあきさせない。色彩と形状の美しさは外観に限られる。

桜の花は「武士道」の象徴ということだ。武士道をテーマにした映画「ラストサムライ」の中で、桜が登場する場面が二つ。渡辺謙演じる勝元盛次の村が忍者に襲われた翌日、トム・クルーズ演じるオールグレンと勝元が満開の桜が舞う寺の境内で「人も桜もいつか散る…」と武士道について語りあう場面。そして勝元が自害する寸前に、満開の桜が目に映り、「完璧だ…」と言って息絶える場面。

この映画は、日本人や武士道を偏見なく描こうとした点で、その努力を評価したい作品。それまでハリウッド映画に見られる日本(もしくは日本人)描写は、白人の俳優が「ツリ目メーク」をほどこしたり、アジア系の役者が(日本語のつもりで)意味不明の台詞を吐いたり、目も当てられなかったことを考えれば大きな進歩である。勝元盛次役の渡辺謙はゴールデングローブとオスカーの助演男優賞にそれぞれノミネートされた(受賞はならず)。

新渡戸稲造の「武士道」:桜の花は「武士道」の象徴であると解説

4.終わりに　～私たちにとっての桜について～

それでは最後に、会員の枝田淳とワシントンの桜との関わりについて紹介してもらうこととする。

ワシントンへの赴任準備もほぼ終わり、残り少ない三重での日々を忙しく送っていた一昨年の6月のある日、赴任以来付き合いのある地元の骨董屋の

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

店主から転勤祝いを渡したいと呼び出された。そこで彼は、今度転勤されるワシントンの有名な桜は日本から贈られたものであることはご存知でしょうが、誰が贈ったか知っていますか、などと言いながら一本の掛け軸を手渡した。その答えは、東京市長（当時）の尾崎愕堂（行雄）で、これは彼の直筆の掛け軸であると。尾崎氏は三重県に縁がありこの手の掛け軸が捜せばあるという。鑑定書の類いはあるのかと尋ねるとそんなものはないが、私の目利きに間違いはないという店主の保証付きの一品だとか。そうか、尾崎先生が日本が世界に誇る花“桜”をアメリカに見事に咲かせたように、私も世界に誇る“新幹線”を走らせるために行くのだから、これは縁起が良いものであるとありがたく頂き、そして、こちらに着任すると早速玄関に飾ることとした。いまだ私の桜は咲かないが、毎朝この掛け軸に見送られて、出勤している。桜寄贈100周年の機会に、この時期ワシントンを彩る美しい桜の生い立ちを振返り、夢を決して諦めなかった関係者の姿勢こそがその実現に不可欠であったことが知り、私も気持ちを新たにがんばっているところである。ワシントンでご活躍の皆さんも、それぞれの桜を立派に咲かせることができるように、先人の姿勢に学びがんばって行きましょう。

玄関に飾ってある尾崎愕堂筆の掛け軸：伊勢の骨董屋の親父からのプレゼント、はたして何と書いてあるのか？

5.来月号の予告

ということで、今回の特別企画を無事終えて、次回の連載は通常のパターンであるキーワードによるリレー形式に戻る。今回のテーマであるワシントンの桜のお返しに1915年にアメリカから日本に送られた花があるのだが、何の花かご存知か？それはDogwood（ハナミズキ）である。よって、これにちなんで次回のテーマをdogwoodsとする。

以上

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン月報（第82回）
「ワシントンDCの桜」

米国弁護士　服部 健一

ワシントンDCの桜といえば、ジョージ･ワシントンが正直であった話が有名である。
これは、伝記作家のパーソン・ウィームズ（メーソン・ロック・ウィームズ）がジョージ・ワシントンの死後に子供向けに書いたThe Life of Washington (1800)の中で書いた作り話である（資料①）。

話の内容は、誰でも知っているとおり、ワシントンが桜の木を切り倒して、お父さんが「お前が切ったのか？」と聞いたとき、ジョージ・ワシントンは「はい、私が切りました」と正直に答えたので、お父さんが褒めたというストーリーである。

ところが、この話は、アメリカの弁護士仲間では、結論が若干異なっている。

お父さんがジョージ・ワシントンを褒めた本当の理由は「正直に答えたからではなく、そのときジョージ・ワシントンはまだ手に斧を持っていたからだ」、というオチである。
まあ、最近の社会では、子供が斧や金属バットを手にしていることは怖いことかもしれない…。

それはともかく、この桜は日本の桜ではない、韓国の桜である、と韓国が主張している。

彼らの理由は、これらの桜は韓国の済州島で天然記念物に指定されている美しい王桜を当時の日本政府が持っていったからだ、ということである。
さらに、「ワシントンの桜といえば、日本という考えは誤りで、日本には元々桜はなかった。韓国が桜の原産地である。日本はそれを移植しただけ」ということを世界中に明らかにしたいらしい。

この桜の木の歴史については、米国内務省の国立公園局（National Park Service）の「HISTORY OF THE CHERRY TREES」に非常に詳しく記載されている（資料②）。

それによると、アメリカで研究していた薬学者の高峰譲吉博士（アドレナリンの抽出やタカジアスターゼの発明者：理化学研究所の設立提唱者の1人）が、1909年4月8日にタフト大統領夫人に日本の桜をワシントンDCに寄贈することを提案したことに端を発している。

日本に住んだことのあるタフト大統領夫人は、桜の美しさを理解していたので、直ちに受け入れた。高峰博士から要請を受けて、尾崎行雄東京市長は1910年（明治43年）1月19日に、2,000本の桜をシアトルへ送った。しかし、これらは毛虫や線虫だらけになっていたので、全て焼却された。

次は、虫が発生しないように工夫を凝らして荷造りし、3,020本の桜を1912年（明治45年）にワシントンDCに無事に運んだ。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

この時の桜の種類は、ソメイヨシノが1,800本、関山桜350本、一葉桜160本等、12種類あり、そのうち御衣黄桜20本は全てホワイトハウスの庭に植えられたと詳しく記録している。

そして、最初の桜祭りは、1935年（昭和10年）から始まった。
第二次世界大戦中に何者かによって、4本の桜の木が切り倒されたが、本当の理由は分かっていないと記載している。

桜をめぐる日米友好は、ますます発展し、1915年（大正4年）には、アメリカから返礼としてハナミズキ（dogwood）が東京へ送られた。植樹場所は不明だが、一部は都立園芸高校で発見されている（資料③）。

以上のように、桜をめぐる日米友好は、最初の3,020本が送られた1912年からちょうど100年になっているが、前述したように、韓国は官民一体になって、ソメイヨシノの桜は日本産ではなく、韓国産であり、これを明確にせよと米国政府に猛烈な働きかけをしているそうだ。

きっかけは、2009年4月6日に聯合ニュースが記事にした、韓国国立山林科学院暖帯山林研究所のキム・チャンス博士が、ポトマック川の桜の標本を採取し、DNA分析を行ったところ、済州島の王桜と同じで、結局、日帝強制支配期に日本人が済州島の王桜を改良、増殖して、それをワシントンDCに送ったものだ（資料④）、という論文を発展し、それ以降、韓国の色々な者が同じ主張を繰り返し始めている。

しかし、米国農務省は自身でその前にDNA鑑定を行い、ソメイヨシノと王桜は別種であると2007年6月に結論しているのである（資料⑤）。しかも、この分析を行ったのは、Roh、Choi、Cheong、Joung各氏という全て韓国系か中国系の研究者であるので信憑性ははるかに高い。ソメイヨシノの期限は、江戸時代の染井村（現、東京都豊島区駒込）で開発された「吉野桜」ということはほぼ証明されているという（資料③）。

しかし、韓国は、アメリカ人や外国人がポトマックの桜を褒めれば褒めるほど、そして例年の桜祭りが盛大になればなるほど、このソメイヨシノは、韓国産ということを主張し、アメリカ政府に圧力をかけ続けるのだろう。

このような韓国起源説は、実は桜だけでなく、日本のほぼ全ての著名なものに対して、韓国は大々的に行っている。その例を挙げると、以下のようなものである（資料④）。

剣道、剣術、侍武士道、切腹、日本刀、居合道、柔道、合気道、空手、相撲、忍者、伊賀流、服部（私のことではなく、伊賀忍者の指導者）、茶道、千利休、華道、盆栽、和歌、演歌（古賀政男は韓国人であると主張）、折り紙、歌舞伎、花札、日本庭園、日本酒、寿司、刺身、醤油、味噌、味噌汁、納豆、沢庵漬、奈良漬、海苔、しゃぶしゃぶ、和牛（！）、うどん、長崎ちゃんぽん、イカ徳利、飴、「日本」の語源、日本人（日本人と韓国人・中国人のDNAは非常に異なるということは立証済みだが）、日本語（！）、敬語、片仮名、万葉集（！）、天下り、下らない（百済からきているとの主張）、奈良の語源、飛鳥地方の語源、神社、祇園祭、十返舎一九、蘇我氏、天照大神、卑弥呼、天皇、ヤマトタケル、スサノオ、乃木希典、佐藤栄作、岸信介…（これ以上はきりがないのでやめよう）

以上の主張のほとんど全ては、韓国語に似た発音や語源等があるので、そこから発生したのだ、という強引で稚拙な説で、まず事実無根がほとんどである。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

しかし、韓国ではこういう主張がどんどん流れているので、若者はそう信じている者も多いらしい。ただし、このような韓国起源説は、日本のものにだけに対してあるのではなく、世界の主要国の著名なあらゆるものに対しても行われている。その例を挙げよう（資料⑤）。

世界のあらゆる言語は元は韓国語（！）、アステカ文明、インカ文明、メソポタミア文明、黄河文明、チンギス・カン、イギリス人（！）、漢字（！）、漢方医、漬物、ピクルス、豆乳、羅針盤、アッティラ、囲碁、サッカー、印刷、ロケット（韓国の人工衛星打ち上げは全て失敗しているが…）、紙、床暖房、鎧、飛行機（古代の書物に「飛車」という記載があることからだけだが）、捕鯨、…（これもきりがないので、この位にしておく）。

中国は、漢字は韓国が起源、孔子、秦の始皇帝等は韓国系中国人といわれてカンカンで、そのせいか、中国人が一番嫌いな国は韓国（日本ではない）という統計があるほどである。

ともあれ、こういう韓国起源説が、韓国内だけに流れているならともかく、you tubeで世界に流しているので迷惑である。世界が情報戦争時代に入っていることは、ずっと前の商工会記事でも書いたが、「韓国は世界で一番優秀である。ほとんど全ての世界の文明は韓国が発生地である」ことを情報洪水で認めさせようとしているようだ。

しかし、この主張は物事の本質を完全に見落としているといえる。大体、世界の工芸品や文化財は全て互いの国々の影響を受けながらミックスして発展しており、オリジナル性は当然に失われ、新しい「もの」として完成しているものがほとんどである。

特に、桜のような植物は、自然によるミックスだけでなく、人類の英知による交配（ソメイヨシノはその典型）があって発育し、さらに今でも改良も進められている。そのうえ、そういう「もの」をめぐる長い間の文化的付加価値（桜でいえば100年間の日米協力）があったからこそ大切なものになるのである。

それを全て無視し、オリジナルが自分の国のものであるから、ポトマック川の桜も韓国のものであるという主張は、正に虎の威を借る狐か狸でしかない。

たとえ、万が一、起源説が正しかったとしても、自分の「もの」を発展させることができなかったことは、逆にいかに自分の文化的程度が低かったかということを自ら実証しているのと同じである。オリジナル性の反証よりもこういう反論の方が、効果があると思うが。

（以上は、全て個人的見解であり、商工会見解とは一切関係はありません）

出所：

資料①：「George Washington, 8.1 Cherry tree」 Wikipedia
資料②：「HISTORY OF THE CHERRY TREES」 国立公園局（National Park Service）
資料③：「ワシントン桜物語 アメリカと日本の友情を深める花」
資料④：「韓国起源説」 Wikipedia
資料⑤：「Research Project: GENETIC RESOURCES, EVALUATION AND INFORMATION MANAGEMENT OF WOODY LANDSCAPE PLANT GERMPLASM」 農務省Agricultural Research Service

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントンソーシャルライフ：「桜祭り100周年」

Shigeko Bork mu project

シゲコ ボーク

いよいよですね！今年の桜祭りはタイダルベイシンに3,000本の桜が贈られてから100年目ということで、商工会の多くの方々がこの5週間にわたる祭典の準備に関わって来られた事と思います。後少しですから、皆さん、一緒にがんばりましょうね！

3月20日から4月27日まで開かれるNational Cherry Blossom Festivalを主催するNational Cherry Blossom Foundation（NCBF）の記者会見に参加してきました。DC市長のヴィンセント・グレイ氏もスピーチした記者会見では、今後5週間に繰り広げられる数々のイベントが発表されました。

まず3月20日にMayflowerホテルで開かれるピンクタイパーティー（チケット一枚$200で3月13日まで購入可能）で幕を開け、開会式は25日、ワシントンコンベンションセンターでとなります。これは無料のイベントですが、事前にNCBFのウェブサイトで登録が必要です。いっぱいになり次第締め切りですからお早めにご登録下さいね。www.nationalcherryblossomfestival.org

素晴らしい日本文化の祭典で紹介したいイベントは沢山あるのですが、いくつか私のお気に入りをお伝えしたいと思います。

3月24日から25日にかけてはSafewayがスポンサーのファミリーデイが国立建築博物館であり、31日には凧フェスティバル、フリーダムウオーク、桜ラグビーとサッカートーナメント、4月7日にはウオーターフロントでの花火大会、それからケネディーセンターではS&R財団によるOverturesコンサートシリーズが4月4日から12日まで開かれます。私が大好きなソプラノの森麻季さんの公演は4日なので、今から楽しみです。

そしてナショナルギャラリーで桜まつり100周年を記念して3月30日にオープンする伊藤若冲展！若冲（1716年から1800年）は江戸時代中期の京で活躍し、写実と想像を混ぜ込んだ花鳥画、特に鶏の絵を得意とした絵師として知られています。

今回の展覧会ではその若冲の代表作であり、動植物を描いた彩色画「動植綵絵」全30幅が一挙公開となります。これは日本国外では初めてとの事。また作品が非常に傷つき易い事から、展示期間はたったの一ヶ月のみ！日本国内でも30幅全部が一挙に公開される事は大変珍しいので、ぜひお見逃し無く。4月29日までの展示です。

日米協会が主催する4月14日の桜まつりストリートフェスティバルには、311東日本大震災の被災地、福島県から山木屋太鼓クラブの子供達が参加します。山木屋は私の生まれ故郷川俣町の一地区で、今回の原発事故で山木屋地区全域は避難対象になってしまいました。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

避難所生活の中練習を続ける元気で明るい未来ある姿をアメリカの首都でぜひ見て頂きたい、との思いから山木屋太鼓クラブを桜まつりに招待しようというプロジェクトが昨年スタートしました。そして日米協会、JETプログラム、US-Japan　Council、森まさこ参議院議員など、多くの方々の善意と協力で子供達13名による太鼓クラブを桜まつりに招待することが可能になったのです。

子供達の元気な演奏は「桜まつりストリートフェスティバル」の他、4月16日のケネディーセンターミレニアムステージで6時から見る事ができます。ぜひ明るく元気な子供達の演奏を見に来て下さいね。

そして最後はヴァイオリニスト五嶋みどりさんとアレキサンドリア交響楽団によるコンサート「Midori with Alexandria Symphony Orchestra/ Symphonica Nova」。3月31日と4月1日の2回公演となります。これは五嶋みどりさんが行っている次世代のクラシックミュージシャンを育て、地元の交響楽団をサポトしよう（Midori's Orchestra Residencies Program）というアウトリーチプログラムの一環で、その地に5日から7日滞在して一緒に音楽を経験し、ハイライトとなるのがこの2回のコンサートです。

出典：www.nationalcherryblossom-festival.org

場所はRachel Schlesinger Concert Hall & Arts Center at Northern Virginia Community College, Alexandria, Campus 3001 N. Beauregard St., Alexandria, Virginia.
料金は大人$40から$75、学生$10から$75、18才以下$5。チケットなど詳しいお問い合わせは703-548-0885　までお願い致します。

それでは今年の桜祭りのイベントでお会いしましょうね。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

二枚目俳優クルーニーがフツーの中年男を熱演
映画『The Descendants』（邦題『ファミリー・ツリー』）（2011年）

米国弁護士　長野 さわか

『サイドウェイ』のアレクサンダー・ペイン監督・脚本のドラマ・コメディ。笑いを交えながら、人生の真実を見事に映し出している作品。

マット・キング（ジョージ・クルーニー）はハワイのカメハメハ王の娘の末裔にあたる(題名のdescendantとは子孫、末裔を意味する)。一族が受け継いだ広大な不動産の管財人で、その売却も大詰めを迎えていた。ところが妻が不慮の事故で意識不明の昏睡状態へ。家庭を顧みず、仕事人生を送ってきたマットは、二人の娘とどう向き合ってよいか途方にくれる。そして、妻が浮気相手と遊んでいる時に事故にあったことを知る。この二重苦とも言えるマットの大ピンチは、とかくセンチメンタルに陥りがちな悲劇を、ドタバタ喜劇の奇妙さと上手く交錯しながら、一ランク上の悲喜劇を作り上げた。

いつもは二枚目でプレイボーイのクルーニーだが、恥も外聞もなくフツーの中年男丸出しの演技は多くの観客の共感を得たのではなかろうか。今年のゴールデングローブで最優秀作品賞(ドラマ部門)および最優秀主演男優賞を受賞し、オスカー主演男優賞にもノミネートされた(受賞ならず）。

【アメリカで人気の系譜学】

邦題の『ファミリー・ツリー』とはいわゆる家系図のことだが、アメリカでは系譜学は非常に人気が高い。日本のように、ある程度祖先が簡単に分かってしまう民族と違い、先住民、奴隷、移民などさまざまな歴史的経緯をたどってきたアメリカ人にとっては、家族の歴史はそれこそ「ルーツ」なのである。

【系譜学とモルモン教徒】

今年は選挙の年。共和党の候補者ロムニー氏は自身の宗教(モルモン教)についてはあまり語らない。私は宗教学の専門家ではないが、キリスト教主流派のカトリック教徒やプロテスタント教徒からすると、モルモン教徒は異端（もしくはカルト）と見做されるのが一般的。ただ、カトリック（旧教）やプロテスタント（新教）の教義上の違いすらおぼつかない日本人にとっては、モルモンもキリスト教の一派と思っておられる方も多いのではなかろうか。

さて、モルモン教とは末日聖徒イエス・キリスト教会（Church of Jesus Christ of Latter-day Saints）の俗称で、ジョセフ・スミス・ジュニアによって1830年に設立された。系譜学でなぜ彼らの話になるかというと、モルモンの教義では、生あるうちにモルモン教の教えを聴く機会の無かった者でも、死後イエス・キリストを受け入れるかどうか選択の自由が与えられるからだ。したがって、先祖を探し出してモルモンの洗礼を受けさせることが可能なのである。（ちなみに主流のカトリックやプロテスタントでは、先祖に遡って洗礼を受けさせることなどあり得ない。）

先祖探しのオンラインサービスを提供する最大手のAncestry.comは、モルモン関係者により設立され、年商3億ドル以上の一大ビジネスを築いている。また、米国公文書館に足を運んで、先祖について調べようとするアメリカ人の数は後を絶たない。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

【有名人のルーツ】

『Crash』『Hotel　Rwanda』などの名作で有名になった俳優ドン・チードル（アフリカ系アメリカ人）は、自分が奴隷の子孫であることはわかっていた。だが最近になって、自分の祖先がアメリカ先住民のチカソー族の奴隷であったことを知る。南北戦争（1861～1865年）中の奴隷解放宣言（1862年）後（米国憲法修正第13条により奴隷制が禁止されたのは1865年）、このチカソー部族の居留地では奴隷解放を認めていなかった。ドンの祖先はその間、1890年代までアメリカ国籍もチカソー部族の市民権も持たない、無国籍を余儀なくされたのだそうだ。アフリカ系アメリカ人とともに、苦難の歴史を経てきた先住民に祖先が奴隷にされていたことを知ったドンの驚愕は計り知れない。（詳しくはPBS番組『African American Lives 2』（司会：ヘンリー・ゲイツ教授）をご参照。）

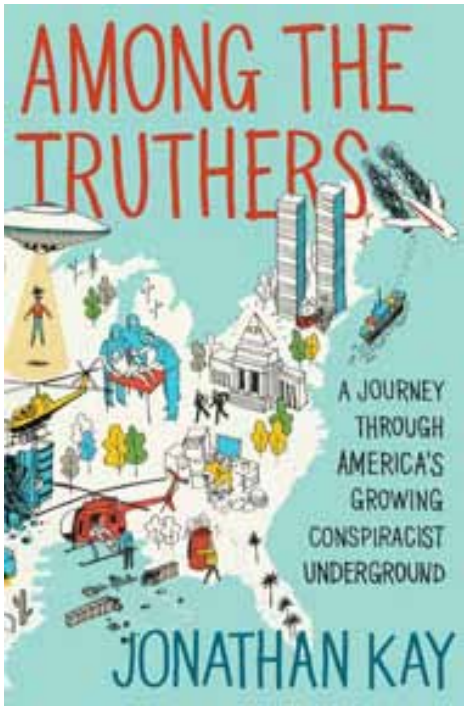
卑近な例で恐縮だが、随分前に祖母の葬儀で我が家の家紋を見たが、その模様は今でも忘れられない。これを機に家紋を通じて自分のルーツについても探ってみるか。

Illustration by Emi Kikuchi

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の書評
「9・11陰謀説信者の中で」
ジョナサン・ケイ

ポトマック・アソシエーツ　池原 麻里子



「9・11陰謀説信者の中で」
ジョナサン・ケイ（ハーパー・コリンズ）

アメリカのC-SPANという公共番組専門局には毎朝、ゲストの政治家やジャーナリスト、各種専門家に対して、視聴者が電話で直接、質問できるコールイン・ショーという番組がある。そこで時折、視聴者が陰謀説を唱えることがある。その際、黒幕として名が挙がるのは外交評議会、国連、三極委員会などだ。彼らは一部のエリートが世界新秩序の構築を目指しており、世界政府が設置され、米国の主権、独立性が失われるという妄想にとりつかれているのだ。

9・11同時多発テロについても、ネオコンに支配されたブッシュ政権がアフガニスタンとイラクを攻撃する理由を作るために自作自演したのだと信じている人たちがいる。彼らはTrutherと呼ばれている。また保守の中には、オバマが米国市民ではないと信じ込んでいるBirtherと呼ばれる人たちもいる。彼らはオバマが回教徒で、米国を内部から破滅させるために選ばれたマンチュリアン・キャンディデイトだと決め付けている。

本書はこういったパラノイアについて分析した著書である。著者のジョナサン・ケイはカナダ人ジャーナリスト。カナダのナショナル・ポストのコラムニストで、ワシントンの民主主義保護財団のフェローでもある。彼は2年にわたって、陰謀説のリーダー達にインタビューし、また信者達の集会に出席し、本書を執筆した。

驚くことに、9・11同時多発テロ陰謀説を信じている米国市民は少なくない（日本でもこれを信じている某民主党政治家がいた）。千人以上を対象とした調査（2006年）によると、「連邦政府の関係者が世界貿易センターとペンタゴン攻撃に参加するか、または阻止しなかった」と信じている者がなんと36%もいるのだ。そして、調査対象者の6分の1は「内部に秘密に配置された爆発物によって世界貿易センターは崩壊した」と考えている。

Trutherの多くは、ケネディー大統領暗殺についても陰謀説を信じている。そしてメディアは軍産複合体とぐるになっており、真実を報道していないと思い込んでいる。そこで彼らの陰謀説の巣窟となるのがインターネットである。インターネット時代が到来する90年代半ば以前は、たとえばケネディー暗殺について研究するには図書館で長時間、過ごす必要があったし、陰謀説を普及させるためには本を出版するしかなかった。しかし、インターネット時代には9・11について誰もがインスタントの「専門家」となって、ウェブサイトを作ったり、ブログで陰謀説を唱えることが可能になったのだ。彼らが9・11がチェイニー副大統領、ラムズフェルド国防長官、ウォルフォウィッツ国防次官のせいだと合意するのも数ヶ月しかかからなかった。アメリカで一番、利用度が高い検索エンジンのグーグルが、サイトの真偽にかかわらず、ヒット数が多いサイトから順にリストしていることも、問題を助長し

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ている。「9・11」をサーチすると、陰謀説のサイトがかなり上位に出てくるのだ。インターネットは異なったイデオロギーを抱く者同士の壁を壊すことはなく、部族主義、陰謀説依存といった人間の本能を助長した。

さて当然ながら、陰謀説は昔から存在するもので、20世紀に始まったことではない。フランス革命、第一次世界大戦、ケネディー暗殺、9・11、そして2008年金融危機といった大きな悲劇や国家レベルのトラウマによって、社会の知的基盤や伝統的な権力に対する信頼が根底から覆されたときに陰謀説が誕生する。アメリカの陰謀説主義には黙示録信仰、小さな政府が望ましいという信念、そして急速な技術進歩が大きく影響している。

それでは陰謀説を信じる者にはどう対応したらよいのか。あいにく陰謀説は根絶できないし、間違いを指摘しても改心は期待できない。著者は人種差別やユダヤ人差別などを乗り越えてきたように、自己批判、自覚心によって陰謀説を最小限化できると主張する。

（NEW LEADER 2011年12月号より転載）

Illustration by Emi Kikuchi

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

連載小説「ワシントン・スクランブル」
～第二話　春の訪れ～

愛川 耀

～前回までのあらすじ～　初めての単身赴任でワシントンに駐在している新庄透は45歳になろうとしている自分の歳が最近妙に気にかかる。ガールフレンドでも作れ、と友人に嗾けられたところ、ジョージタウンで若い女性に出逢った。

●●●●●●●●●●●●●

その黒木アリサという若い女性は真っ直ぐな長い黒髪を後ろできちんと纏めており、地味なグレーのセーターに黒いパンツで今日はいかにもオフィス勤めに相応しい恰好をしていた。お辞儀をして顔を上げた彼女はこちらに気づいたとの素振りを見せず、透はひょっとして勘違いだったかと自分の眼を疑う。

しかし、見つめられた相手をどぎまぎさせる真っ直ぐな眼差し、黒眼がちの綺麗な瞳は、間違いなく先日ジョージタウンで出逢った女の子のものだ。

それともそんな風に想いたいだけだろうか。

「えーと、チョコレートとか、好き？」

春香から受け取ったテンプスタッフの人事ファイルを開きながら透がそれとなく尋ねると、怪訝な顔をしている春香の隣でアリサが薄く笑った。

「嫌いです。食べると太りますから」

とすると、やはり顔形が似ているだけで人違いに過ぎないのかもしれない。

春香から仕事内容を宜しく承ってくれと頼み、透がファイルに視線を戻そうとすると、部屋を退出しかけていたアリサはこちらを振り向き、囁くかに小声で付け加えた。

「他人からプレゼントされれば、話は別ですけれど」

不可思議な言葉を残した彼女の後ろ姿を眼で追いながら、透は困惑する。

黒木アリサ。履歴書によるとアメリカの大学を卒業したらしいが聴いたことがない大学だ。職歴には日本企業のニューヨーク駐在員事務所やら、NGOらしき団体名が幾つか記されており、どれも半年間ほどのテンプ経験のようだった。

二十五歳。透達夫婦には子供がいないが、早婚だったらまさに自分の子供であってもおかしくない歳だ。何だかすべてが急に滑稽に想えてきて、透は一人苦笑した。

街路樹はまだ枯れた裸の梢を覗かせているが、三月ともなると木蓮の花が次々と咲き始めて街に艶やかな桃色の彩りが加わり、風にも甘やかな春の息吹が感じられる。

＊愛川耀氏（ペンネーム）はJCAW会員。ブログでワシントン生活を綴るフォトエッセイを連載中。（http://blogs.yahoo.co.jp/aikawaakihome）東日本大震災一周年を機に小説『絆』を上梓（http://p.booklog.jp/book/43069）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

透は所長室の机に飾られた紫のチューリップを愛でながら、何となくウキウキした気分に浸っていた。隣の部屋から書類を持って来たアリサはやはり薄紫色のセーターを着ており、直接尋ねたことはないが、毎週月曜日に机の上の一輪挿しに花を飾ってくれているのは秘書のスーザンではなくアリサであるという気がしている。何故なら彼女は月曜日には必ず花と同系色の服を着ているからで、単なる偶然とは思えない。

先週頼んでおいた環境関連法案に関する議会動向を纏めた資料に眼を通しながら、このオフィスに馴れたかどうかを尋ねてみた。

「テンプは即戦力を問われているので、無論もう馴れました」

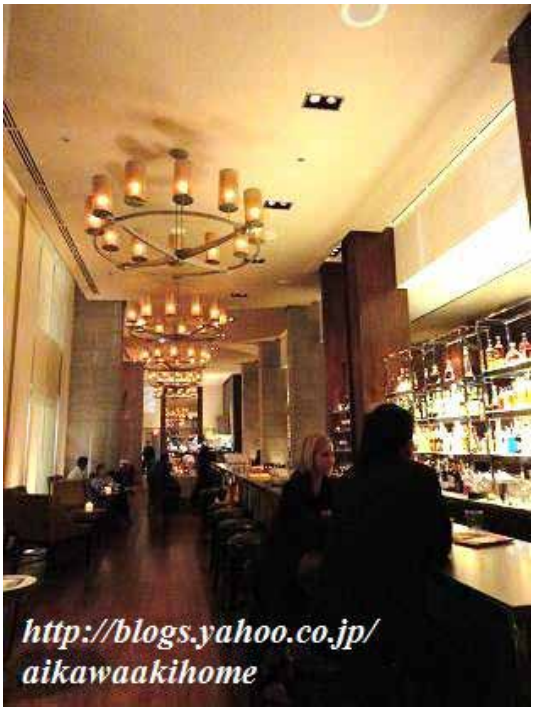
そういうものかと透が苦笑すると、何時も無表情な顔ばかり覗かせていたアリサが珍しく笑みを零した。頑なな雪が溶けたような春色の柔らかい笑み。

いや、これまでも安藤や現地採用スタッフの堺らとは明るくお喋りしているようだったから、所長に対してだけ澄ました表情を装っているということも有り得る、と透は勘繰る。或いは、年代が離れているから、という単純な理由かもしれない。

アリサが草稿したレポートにしかつめらしい顔を繕って短いコメントを与えながら、透は頭の片隅で妙に浮き足だっている気分の昂揚に気づく。顔を上げたりしたら相手にそれを感づかれそうなので、ワープロで打たれた書面にひたすら目を遣り続けた。

「それでどうしたってわけ？」

出張でワシントンを訪れている中高時代以来の友人桂木は面白そうにこちらを振り向くと、透に話を促した。マンダリンオリエンタル・ホテルのバーは薄暗い洒落た照明で、男同士で来るより女性と一緒にグラスを傾けるのに適していることは間違いない。



「どうした、ってことでもないんだが、何だか春めいた気分なんだ。いや、誤解しないでくれ。別に何もないんだが、狭いオフィスに若い女の子がいるというだけで、どうも気分がフワフワするわけだ。全く意味も無く、ね」

東京の本社には若い女の子などたくさん働いていたわけだから、それがどうして今になってアリサという一人の女性の存在でこうも気分が昂ぶっているのか、透は自分でも内心図りかねている。

「お前みたいな堅物がそういう口を利く、ってところからして心配なものがあるな。やっぱ単身赴任が相当応えて、それで欲求不満なんじゃないか」

「変なことを言わないでくれよ。そういうことじゃない。違うんだ。もっとこう、純粋な気持ちなんだ。何て言うか、観賞しているだけで嬉しい、みたいな・・」

言いながら、透はふと遥か遠い昔の自分を思い出す。中高一貫教育の私立校で脇目も降らずに受験勉強ばかりしていた頃、そして希望していた大学に入学し構内で女子学生を眼にした時のフワっと和らいだ雰囲気。晴れやかな顔の女の子達が皆眩しく見えたものだった。

桂木は手にしたウィスキーのグラスを揺すって氷の軽い音を響かせると薄笑いした。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

「じゃ、それは解放感ってやつじゃないか？本社の激務から解放され、奥方の眼からも逃れてホッと一息。中年男の心の洗濯、ってわけだ。しかし、そういうのが一番危ないのさ。俺の人生はこれでいいのか、なんて余計なことを考えたりする。恋がしたい、なんて青臭い想いに捉われたりするやつもいる」

桂木の言葉に愕いて、透は即座に首を振った。

「まさか」

まさか年甲斐も無く、と続けようとして、透はふと言葉を濁す。何を隠そう、最近寝付きが悪くなったのはまさに桂木が指摘した面もあるからだ。

このまま人生を終えてもよいのだろうか。

唐突ではあるが、曖昧模糊としたこの問い掛けがふと胸を過ぎり脳裏を離れないのは確かだ。長い付き合いの友人に、ふと心の裡を打ち明けたくなる。

「まさか、だが、一理あるな。このところなかなか眠れないことがあるんだ。今の生活の何が不満ということではないが、歳を取ることに対しての朧げな不安みたいなものが湧いて来て、ベッドに入ってさて寝ようとすると、いろいろ考えてしまうんだ」

「それはヒマだからいけないんだ。時間があり過ぎると人間、迷いが出る」

桂木の診断に笑いながらも、確かにその通りかもしれない、と透は思い当たる。駐在員事務所の仕事は情報収集がメインなので、胃に穴が開きかねないほど切迫した緊張感に苛まれ営業部門で東奔西走していた日々に比べると、こちらでの業務は緩慢で単調だ。仕事であって仕事でない、虚業、と呼んでいいかもしれない。

「ま、新庄、オフィスに可愛い子がいるんだったら、観賞なんてジジ臭いことは言わないで積極的に出たらいいじゃないか。でもセクハラにだけは気をつけろよ」

桂木の軽口に透は苦笑せざるを得ない。

「冗談じゃないよ。それほどヒマじゃないし、第一、二十も年下の女の子に下手な関心を持つほど莫迦でもないさ。それこそオジン臭いぜ」

言いながら、透は思わずアリサの顔を思い浮かべる。

笑顔よりツンと澄ました表情が似合う切れ長な瞳。

もし自分が若くて独身だったらあの娘に惚れたかもしれない。

ふとそんな妄想をして、透は慌てて彼女の面影を脳裏から振り払った。

駐在員事務所は応接室も兼ねる大きな所長室とその並びにスタッフが仕事をする部屋、ミーティングルーム、そして秘書が座っている受付、という小さな所帯だ。会合への出席が多い仕事なので日中何度も事務所を出入りするわけで、その都度スタッフルームに眼を遣ってアリサの存在を確認するのが透の習慣になりつつあった。

彼女は顔を上げて、行ってらっしゃい、と言ってくれることもあるし、こちらに気づかないのかパソコンに向かって忙しそうにキーを叩き続けている日もある。事務的で無表情な顔を振り向けるだけの時もあるし、お帰りなさい、と微笑で迎えてくれることもある。

たかがスタッフ一人の話だ、と理性的に振る舞おうとは試みるものの、そう想えば想うほどに、実は彼女の存在が気になって仕方が無いのだった。

「あれ、今日は黒木さんは休み？」

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

部屋にアリサの姿が見えないので透が出掛け際に思わず尋ねると、会合に一緒に出席すべく席を立った安藤が答えた。

「彼女、今日は休暇を取っています」

そうか、と頷いてはみたものの、心の何処かで落胆していることを否めない。毎日それとなく彼女の様子を垣間見ることに馴れていたので、その姿が見えないといささか不安なのだ。そう気づいた途端に、透は自分でも心配になった。

「所長、どうかしましたか？」

いや、例のロビイストの件だが、と誤魔化して安藤と話を続けながらも、アリサの面影が透の脳裏から離れない。

本社への連絡があり晩遅くまでパソコンに向かいオフィスに残っていたところ、所長室の扉を軽くノックする音に気づいた。オープンドアポリシーで部屋のドアはいつも半開きにしてある。きっと仕事熱心な安藤だろうと推測し、入って、と透が無造作に応答すると、扉を開けて顔を覗かせたのは愕いたことにアリサだった。

テンプのスタッフには残業をさせない方針なのに、どうして彼女がこんな夜中にオフィスにいるのだろうか。こちらの動揺に感づいたのかアリサはフッと笑みを洩らすと、後ろ手にドアをぴったりと音をさせて閉め、ゆっくりとデスクに近づいて来た。

何事だろう、と透の鼓動がわけもなく高鳴る。（続）

Illustration by Emi Kikuchi

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の簡単レシピ：「sakuraちらし」

フードクリエイター　木内 由紀

まだ朝晩は冷え込みますが、日本ではそろそろ桃の咲く頃ですね。この辺でも街が色に染まりはじめ、ワクワクと心躍る季節がやってまいりました。
今年は、日本からワシントンDCに桜が寄贈されてから100周年という記念の年だそうですね。

レシピもピンクと緑を使用し、桜をイメージして作ってみました。

殺菌効果のあるお酢やレモンをたっぷり含んだご飯ですので、少々の時間持ち歩いても美味しく安心して頂けるので、おにぎりにしてお花見に持参するのもいいですね。

面倒な具材の下ごしらえも出来るだけ省略し、アメリカで手軽に揃えられる材料で作ります。爽やかな酢飯が春を思わせるちらし寿司、お祝いの席にもどうぞ。

ちなみに我が家の育ち盛りは、おにぎりにしておやつにガツガツと食べていました。

sakuraちらし（4人分）

≪材料≫
●酢飯
・米：：2合（360cc）

［合わせ酢］
・酢：：大さじ4
・粗塩（天然の塩）：：小さじ2弱
・砂糖（ライトブラウンシュガー使用）：：大さじ2
・かつおだし顆粒：：少々
・レモンの皮すりおろし：：1/4個分

≪合わせ酢を合わせた後に加える≫
[a]
・レモン汁(フレッシュ)：：大さじ1
・ごま油

●具
・スモークサーモン：：60g程度～
（細かく割）
・むき海老：：10尾
（茹でたもの⇒お好みの大きさに切る）
・干ししいたけ：：小さめ4枚程度
（戻し汁：大さじ2 + 醤油,みりん,砂糖：各大さじ1+1/2）

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

・錦糸卵
（卵2個+砂糖,塩ひとつまみ+片栗粉小さじ1）
・ベビーブロッコリー：：適量
（茹でたもの⇒小房に分ける）
・スナップエンドウ(Sugar Snap Peas)：：適量
（茹でたもの⇒斜めに削ぎ切る）
・炒りごま

≪作り方≫
【1】具の材料の干ししいたけは戻し、（　）内の調味料で煮含め、冷ましてから水分を絞って使います。その他の材料もあらかじめ用意しておきます。

【2】硬めに炊いた米は、寿司桶又は底面積の広い容器に出し広げます。しっかりと混ぜ合わせた合わせ酢をまわし入れ、ヘラで切るように混ぜ合わせます。
合わせ酢が全体に馴染んだら[a]も加え、引き続き切るようにヘラで混ぜ、桶全体に広げうちわで扇ぎ、水分を飛ばしながら冷まします。

【3】上に飾る具1/3程度を残し、その他の具をふんわりと混ぜ、色鮮やかに表面を飾り出来上がり。炒りゴマも散らしてどうぞ。

≪ポイント≫
具材料の野菜は塩を加えたたっぷりの熱湯に入れ、再度沸騰したら20秒数えザルにあけます。短時間の調理が、野菜の美味しさが引き出てちらしも美味しく仕上がります。
また酢飯にオイルを少量加えることでふんわりゴマ風味と、お米の食感がUPします。

●ここで使っているスモークサーモンはこちらです、塩鮭の切り身のように身が厚く、程よい塩とスモークの加減がとても気に入っています。アメリカのスーパーで購入できます。

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

sakuraサラダ

≪材料≫
・ちらしで残った材料：：全て

●ドレッシング
・レモン汁：：大さじ1
・オリーブオイル：：大さじ2
・粗塩：：小さじ1/2強
・胡椒：：お好みで

≪作り方≫
●材料は全て食べやすい大きさに切ります。しっかり混ぜ合わせたドレッシングに絡め頂きます。
サーモンの美味しさがレモン風味と加わり、爽やかなサーモンサラダといった感じです。

～フードクリエイター　木内由紀　プロフィール～

日々の料理や手作りパン、スイーツのレシピなど1,000以上を、ブログ「ゆちのお料理実験室」で紹介。

簡単でおいしい内容が人気を呼び、テレビや雑誌、企業にも多数レシピを提供している。

現在アメリカ、ワシントンDC近くバージニア州にて活動中。

ブログ：http://oryorijikken.blog48.fc2.com/

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

English Rescue by Jennifer：「日本人が間違いやすい英語表現⑪」

ジェニファー・スワンソン

One of the reasons I moved to Washington DC from Tokyo (instead of New York City) was the long connection DC has with Japan through the Cherry Blossom trees. In 1912, Tokyo Mayor Yukio Ozaki gifted Washington DC and New York City with 100 cherry blossom trees. The New York trees were distributed around the city, but the DC trees were planted around the newly built Tidal Basin and looked after by the National Park Service. This year, 2012, marks the 100th anniversary of the gift of trees from Japan and is a measure of the friendship between the two countries.

So, how will you celebrate this year?

In Japan, people do 花見. When I lived in Japan, my friends often invited me to 花見 and I always enjoyed it. American people do not have the same concept. Instead we may do "a picnic" under the trees. But, during a picnic, there is no カラオケ, no instruments and no alcohol (especially on National Park Service areas.) And American picnic is usually sandwiches, chips, potato salad and vegetable sticks. Plus some kind of dessert like cookies.

In Japan, I also saw 夜桜. This is also a Japanese concept. Since we don't have this tradition in the USA, there is no word, rather an explanation. "Viewing cherry blossom trees at night." Or "Night illumination of the cherry blossom trees."

If you want to share Japanese culture with your American friends, make a traditional お花見弁当 (Japanese boxed lunch) and invite them to share in a "Japanese picnic under the cherry blossom trees." But, leave the カラオケ at home!

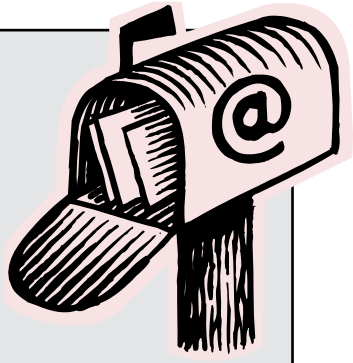
Please feel free to email me anytime with questions or suggestions for future English Rescue. Jeniko3@gmail.com（日本語でどうぞ）

～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。
日米でのさまざまな経験を基に、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

日米協会英語レッスンでは第7期生徒を募集中です。詳しくは：http://www.us-japan.org/dc/pdf/2011/ELS%20Spring%202011%20Registration.pdf

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。



3月号　編集後記

“ワシントンと言えば桜”、“桜と言えばワシントン”というほどに全米は勿論のこと世界的にも有名になってしまった“桜とワシントン”の関係、更に“桜と言えば日本”という素晴らしいイメージ。

この世紀のイメージ作りはどのような努力と、どのような経緯で作り上げられたのでしょうか。

今から100年前、桜が贈られた1912年の時代背景としては1905年に終了した日露戦争から数えて7年目に当たり、ポーツマス条約締結に尽力した米国政府に対する外交的信頼甚だ大きかったと推測されます。

ポーツマス条約締結を成功に導いた強力コンビ高平小五郎（たかひら・こごろう）駐米大使と時の外務大臣小村壽太郎がこの時も絶妙な連携で尾崎行雄（おざき・ゆきお）東京市長に米国への桜寄贈を照会し、このプロジェクトは大きく前進したと歴史はおしえています。

何事も成功の秘訣はタイミング、素晴らしい発想、そしてどのような障害をも乗り越えることのできる行動力だと思います。

今回商工会で支援している一連のイベントも、例外なくこれら3つのファクターが遺憾なく発揮されておりまして、後は会員の皆様の暖かいご支援を期待するのみです。

桜特集で纏めました3月号会報ですが、桜寄贈100周年行事を盛り上げる一助になりますれば幸甚です。

為村・伊藤

JCAW Copyright © 2012 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。